

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
1 0 6 - 2 5 4	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、高等学校学習指導要領「言語文化」に準拠して編修した教科書である。教育基本法第2条にある目標と「言語文化」の目標の両方の達成を可能にするため、言語を通して伝え合う力を高め、思考力・判断力・表現力を育成しつつ国語力を高められるよう、題材の選定と学習内容の構成・展開に留意した。

2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に示す教育目標を達成するため、以下の点を編修の基本方針とした。

①指導しやすい単元構成

多様な教育現場の学力レベルと指導形態に対応できるよう、「古文編」「漢文編」「近代以降の文章編」の3部構成とした。「古文編」「漢文編」はジャンル別単元とした。また、この3部構成での学習を円滑に進めるための導入部として、冒頭に「〈知〉のコミュニティへ」を設置した。

②教材の配置と学習の指針

各教材は、内容のまとまり・指導の時間数を考慮したうえで適切な分量の優れたものを精選した。また、学習上・指導上の効果を考慮して、より易しいものから難しいものへと配列した。各教材の本文の前に「本文スコープ」を設定し、本文読解の手がかりとなる着眼点を掲げた。また教材末尾には、「読解」「表現」「発展」の問題から成る「学習の手引き」を設けるとともに、各教材における最終的な言語活動の到達目標を示す「活動」を設定し、学習の指針となるようにした。

③教材の理解と主体的な言語活動

学習者の理解力養成のため、各教材の本文下段には内容理解を促す小問を付したほか、末尾の「学習の手引き」には内容理解を深め、主題に迫るための「読解」問題を必ず設けた。さらに、主体的な学びに誘うための言語活動を各教材に設けた。そのほか、言葉の特徴や使い方、言語文化に関する知識の学習に資するため、「古文編」では重要古語を、「漢文編」では基本句形を、各教材の本文下段にまとめた。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ)
● 〈知〉のコミュニティへ 「ことばの風、文化の記憶」 1 単元 (2 教材)	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、文語的表現に目を向ける教材「SAKURA」と、古典作品の世界に分け入る教材「ことばが運ぶ文化の記憶」を配した (第5号)。	①14～30
● 古文編 古文編導入文	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、古文編導入文として「古典と文化・古文と古語」を設けた (第5号)。	①32～33
● 古文編 5 単元 (35 教材)	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、古文編に5単元を設け、古文の多彩な表現に触れられる35教材を配した (第5号)。 ②先人の感性を通して、自然と人間のあり方に目を向ける教材「徒然草 花は盛りに」を配した (第4号)。	①34～148 ②62～63

●古文編 「文法の基礎」1～3 「文法の要点」1～4	①文語の決まりや言葉の成り立ち、表現の特色などについての知識を深められるよう、「文法の基礎」1～3 および「文法の要点」1～4 を設けた（第1号）。	①37～39 ・44～45 ・52 ・149～156
●古文編 港千尋「場所の記憶 を残す恋歌」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、歌枕を用いた恋歌に込められた意味を読み解く教材「場所の記憶を残す恋歌」を配した（第5号）。	①127～133
●漢文編 漢文編導入文	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、漢文編導入文として「漢文を学習するということ」を設けた（第5号）。	①158
●漢文編 5 単元（28 教材）	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、漢文編に5 単元を設け、漢文の多彩な表現に触れられる28 教材を配した（第5号）。 ②自主および自律の精神を養い、人生について考えを深められるよう、「思想」単元を設け、「論語」「孟子」の教材を配した（第2号）。	①168～232 ②218～226
●漢文編 「漢文の基礎」 「漢文の要点」1・2	①訓読の決まりや言葉の成り立ち、表現の特色などへの知識を深められるよう、「漢文の基礎」および「漢文の要点」1・2 を設けた（第1号）。	①159～167 ・233～236
●漢文編 「古典の魅力—現代 からの視点」 松浦友久「友情」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、漢文を現代からの視点で読み解く教材「友情」を配した（第5号）。	①204～209
●近代以降の文章編 近代以降の文章編 導入文	①言語文化の伝統を受け継ぐ近代以降の言語表現について理解を深められるよう、近代以降の文章編の導入文として「言語文化の近代——「自分」と外界」を設けた（第5号）。	①238～239
●近代以降の文章編 「近代の小説」 (4 教材)	①正義と責任、自己と他者との関係について考えを深められるよう、「近代の小説」単元を設け、多彩な内容を持つ4 教材を配した（第3号）。	①240～287
●近代以降の文章編 「近代の文体」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、明治期の小説の文体に着目させる教材「文体の変遷」を配した（第5号）。	①288～293
●近代以降の文章編 「近代の詩」 (4 教材)	①創造性を培い、自主および自立の精神を養うことができるよう、「近代の詩」単元を設け、多彩な表現に触れられる4 教材を配した（第2号）。	①294～299
●近代以降の文章編 「近代の短歌・俳句」	①幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培えるよう、「近代の短歌・俳句」単元を設け、多彩な表現に触れられる教材を配した（第1号）。	①300～305

●近代以降の文章編 「現代の小説」 小川洋子「ひよこトラック」	①人間の真理を求める態度を養い、豊かな情操を培えるよう、登場人物の心情の移り変わりを通して作品の主題を捉える教材「ひよこトラック」を配した（第1号）。	①306～319
4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
・一般的な教養を高めるとともに、専門的な知見に触れられるよう、「古文編」「漢文編」に「コラム（1～9）」を設けた。（「古文編」53、80～81、85、96、114～115、142～143、「漢文編」179、215、227） ・各教材本文から見えてくる当時の世界観を解説した「古典世界ビュー」を、「古文編」の7教材および「漢文編」の5教材に設けた。 ・各教材の出典に関する理解を深められるよう、「古文編」の「伊勢物語」と「古今和歌集」、「漢文編」の「論語」に、作品の成立や構成について解説した「構成と概観」を設けた。		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-254	高等学校	国語	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

個々の教材の採録にあたっては、全体として、学習指導要領の「2 内容」の各事項に沿った指導ができるよう、優れた表現と構成を持ち、主題や内容が明確で、適度な長さのものを厳選した。また、教材間に、本文の学習をより深めるための資料として「コラム1～9」「構成と概観」「文法の基礎」「文法の要点」「漢文の基礎」「漢文の要点」を、巻頭巻末に「付録」を設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
ミ ュ ニ テ ィ ヘ	こ と ば の 風 、 文 化 の 記 憶	SAKURA	14～15	(1)アイウ		(1)ウ		1
		ことばが運ぶ文化の記憶 ——近代・近世・中世・中古・上代・漢文	16～30	(1)アウ(2)イオ		(1)エオ		1
古 文 編	古 文 入 門	古典と文化・古文と古語	32～33	(1)ア			—	—
		児のそら寝〔宇治拾遺物語〕	34～36	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		●文法の基礎 1	37～39	(2)ウ			—	—
		検非違使忠明のこと〔宇治拾遺物語〕	40～41	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		大江山〔十訓抄〕	42～43	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		●文法の基礎 2	44～45	(2)ウ			—	—
		花盗人の歌〔沙石集〕	46～47	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイオ		1
		鷹使いの見た夢〔沙石集〕	48～51	(1)ウエ(2)ウ	(1)イ		1	
		●文法の基礎 3	52	(2)ウ			—	—
		〔コラム1〕古文はタイムマシンだ	53	(1)ア(2)エ			—	—
		◇古文解析の実際 海賊の感泣〔十訓抄〕	54～55	(1)ウ(2)ウ		(1)アイ	—	—
	随 筆 と 日 記	徒然草 つれづれなるままに	56	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		徒然草 ある人、弓射ることを習ふに	56～57	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		
		徒然草 奥山に猫またといふもの	58～59	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイウ		1
		徒然草 丹波に出雲といふ所あり	60～61	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		徒然草 花は盛りに	62～63	(1)ウエ(2)ウ		(1)イエオ		1
		◇比較で深める 兼好法師が詞のあげつらひ〔玉勝間〕	64～65	(1)ウエ(2)ウ				
		枕草子 春はあけぼの	66～67	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイオ		1
		枕草子 ありがたきもの	68～69	(1)ウエ(2)ウ	(1)アイ		1	

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
古文編	随筆と日記	枕草子 九月ばかり	70～71	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		土佐日記 門出	72～74	(1)ウエ(2)イウ	(1)アイ		1	
		土佐日記 かしらの雪	75～76	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		土佐日記 帰京	77～79	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		〔コラム2〕うなぎ屋さんの「うふぎ」―変体仮名の話―	80～81	(1)ア(2)エオ			—	—
古文編	物語と軍記	竹取物語 なよ竹のかぐや姫	82～84	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイオ		1
		〔コラム3〕「語り」の文学	85	(1)ア(2)ウ			—	—
		竹取物語 かぐや姫の嘆き	86～88	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイウ		1
		構成と概観「伊勢物語」	89	(2)イ			—	—
		伊勢物語 芥川	90～91	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		伊勢物語 東下り	92～95	(1)ウエ(2)イウ		(1)アイ		1
		〔コラム4〕「伊勢物語」のパロディー	96	(1)ア(2)イ			—	—
		伊勢物語 筒井筒	97～99	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		伊勢物語 梓弓	100～101	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイエ		1
		伊勢物語 小野の雪	102～103	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		平家物語 祇園精舎	104～105	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイウ		1
		平家物語 木曾の最期	106～113	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		
		〔コラム5〕物語と「むかし」	114～115	(1)ア(2)エ			—	—
	和歌と俳諧	万葉集	116～118・124～125	(1)ウオ(2)ウ		(1)アイエ		1
		構成と概観「古今和歌集」	119	(2)イ				
		古今和歌集	120～121・124・126	(1)ウオ(2)ウ		(1)アイエ		
		新古今和歌集	122～124・126	(1)ウオ(2)ウ		(1)アイエ		
		伝統と文化 場所の記憶を残す恋歌	127～133	(1)イウエオ(2)カ	(1)アイ		1	
		奥の細道 旅こそ栖	134～136	(1)ウエ(2)イウ		(1)アイウ		1
		奥の細道 那須野の少女	137～138	(1)ウエ(2)ウ		(1)アイ		1
		奥の細道 平泉懐古	139～141	(1)ウエ(2)ウ	(1)アイ		1	
		〔コラム6〕蛙は古池に飛び込まない	142～143	(1)ア(2)イ			—	—
	翻案	簾史と弄玉〔唐物語〕	144～146	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		怪を語れば怪至る〔伽婢子〕	146～148	(1)ウエ(2)ア		(1)アイウ		1
		●文法の要点1（助動詞）	149～151	(2)ウ			—	—
		●文法の要点2（助詞）	152～153	(2)ウ			—	—
		●文法の要点3（敬語）	154～155	(2)ウ			—	—
		●文法の要点4（和歌の修辞）	156	(1)オ(2)ウ			—	—

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
漢文編	漢文入門	漢文を学習するということ	158	(1)ア(2)ア			—	—
		●漢文の基礎	159～167	(2)ウ			1	1
		推敲〔唐詩紀事〕	168～169	(1)ウエ(2)アイウ		(1)アイエ		
		漁父之利〔戦国策〕	170～171	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ	1	1
		知音〔呂氏春秋〕	172～173	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		
		朝三暮四〔列子〕	174～175	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		塞翁馬〔淮南子〕	176～178	(1)ウエ(2)アウ	(1)アイ		1	
		〔コラム7〕 故事成語に親しもう	179	(1)ア(2)ア			—	—
	史伝	◇漢文解析の実際	180～181	(1)ウ(2)ウ		(1)アイ	—	—
		鶏口牛後〔十八史略〕	182～183	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイエ		1
		鶏鳴狗盗〔十八史略〕	184～187	(1)ウエ(2)アイウ		(1)アイエ		1
		管鮑之交〔史記〕	188～190	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		臥薪嘗胆〔十八史略〕	191～193	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
	詩文	絶句（杜甫）	194	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ	1	1
		登鸛鵲楼（王之涣）	195	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		早発白帝城（李白）	196	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ	1	1
		送元二使安西（王维）	197	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		楓橋夜泊（張継）	198	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		涼州詞（王翰）	199	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		登岳陽楼（杜甫）	200	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ	1	1
		送友人（李白）	201	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九（白居易）	202	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ	1	1
		◇比較で深める「聞白樂天左降江州司馬」（元稹）	203	(1)ウ(2)アウ		(1)アイウ		
		【古典の魅力—現代からの視点】友情	204～209	(1)ウ(2)イ		(1)アイウ		
		雑説（韓愈）	210～211	(1)ウエ(2)アウ		(1)アイ		1
		愛蓮説（周敦頤）	212～214	(1)ウエ(2)アイウ		(1)アイエ		1
		〔コラム8〕 漢字はどこまで簡単に？—中国の簡体字	215	(1)ア(2)アエ			—	—
	思想	構成と概観「論語」	216～217	(2)イ			—	—
		論語	218～223	(1)ウ(2)アイウ		(1)アイ		1
		孟子	224～226	(1)ウ(2)アウ		(1)アイオ		1
		〔コラム9〕 孔子とその弟子	227	(2)アエ			—	—
	日本の漢文	読家書（菅原道真）	228・230	(1)ウ(2)ア		(1)エオ	1	1
		蚩（菅茶山）	229・230	(1)ウ(2)ア		(1)エオ		
		無題（夏目漱石）	230	(1)ウ(2)ア		(1)エオ		
		野中兼山（原念斎）	231～232	(1)ウ(2)アイ		(1)アイ		
		●漢文の要点1（主な句形）	233～235	(2)ウ			—	—
		●漢文の要点2（漢詩の修辞）	236	(2)ウ			—	—

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			配当時数	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 書くこと	B 読むこと	A	B
近代以降の文章編		言語文化の近代 ――「自分」と外界	238～239	(2)アオ			—	—
	近代の小説	羅生門	240～252	(1)イウエ(2)カ		(1)ウエ		4
		◇比較で深める「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」	253～255	(1)ウエ				
		城の崎にて	256～267	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		3
		蠅	268～278	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		2
		猿が島	279～287	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		3
	近代の文 体	文体の変遷	288～293	(1)ア(2)オ		(1)ウエ		3
	近代の詩	小諸なる古城のほとり	294～295 ・299	(1)ウ		(1)ウオ		1
		道程	296・299	(1)ウ		(1)ウオ		
		蟬頃	297・299	(1)ウ		(1)ウオ		1
		鶯のうへ	298～299	(1)ウ		(1)ウオ		
	近代の歌・俳句	近代の短歌八首	300～301 ・305	(1)アオ	(1)アイ		1	
		近代の俳句八句	302～305	(1)アオ	(1)アイ			
	現代の小説	ひよこトラック	306～319	(1)イウエ(2)カ		(1)イエ		3
							7	63
							総計	70

常用漢字以外の使用漢字一覧表

〔知〕のコミュ	古文編	徽(65)	綾(106)	薨(140)
ニティへ	伊(31)	宸(65)	鎧(106)	蛙(142)
吾(13)	嶽(31)	臙(65)	鋏(106)	敲(143)
柴(13)	叡(34)	雁(66)	籐(106)	寥(143)
嘘(14)	舅(37)	桶(67)	葦(106)	簫(144)
漱(16)	嫗(37)	姑(68)	鞍(106)	穆(144)
鷗(17)	絃(37)	濡(70)	鐙(107)	鳳(144)
綴(17)	菡(40)	蜘蛛(70)	斐(107)	凰(144)
芭(18)	簾(42)	蛛(70)	栗(109)	雀(145)
蕉(18)	昌(42)	菽(70)	疵(110)	焉(145)
撰(20)	惹(47)	之(72)	馳(111)	其(145)
纂(20)	鷹(48)	戌(72)	套(115)	祠(145)
鴨(21)	鴛(48)	堵(74)	蒲(116)	雍(145)
庵(21)	嘴(48)	卯(75)	廻(116)	蒙(146)
菅(22)	菩(48)	楫(75)	笹(117)	伽(146)
桐(23)	梁(51)	磯(76)	禰(118)	婢(146)
壺(23)	塵(51)	裳(83)	萌(118)	臘(146)
寵(23)	汝(53)	譚(85)	羈(119)	鞠(147)
嶺(24)	饅(53)	祇(85)	渚(120)	昏(147)
俣(25)	邇(54)	芥(90)	橘(120)	坐(147)
櫛(25)	簞(54)	胡(90)	于(121)	誨(147)
晋(26)	策(54)	籙(90)	淵(121)	嘗(147)
隋(26)	潯(55)	倭(91)	帖(122)	臾(147)
宋(26)	琵琶(55)	聚(91)	苦(123)	乍(148)
楊(26)	漕(55)	駿(93)	幡(128)	雖(148)
劉(27)	硯(56)	鳴(95)	湊(129)	亦(148)
夷(27)	懈(57)	蒂(96)	輔(132)	匍(148)
洛(27)	陀(58)	匙(99)	栖(134)	匍(148)
抒(27)	獅(60)	筍(99)	霞(134)	掩(148)
秦(28)	狛(60)	梓(100)	笠(135)	乎(148)
殷(28)	隈(62)	惟(102)	灸(135)	諺(148)
而(29)	梢(62)	喬(102)	墅(135)	漢文編
於(29)	逢(62)	娑(104)	雛(135)	杏(157)
祿(30)	茅(62)	趙(104)	啼(135)	魯(157)
稗(30)	檜(63)	莽(104)	撫(137)	朋(158)
阿(30)	弘(65)	昇(104)	耀(139)	胥(160)
誦(30)		巴(106)	頰(140)	楚(160)

伍(160)	誑(174)	蠡(192)	盃(205)	攘(220)
奢(160)	芋(174)	讚(192)	飄(207)	斯(221)
李(161)	遽(176)	鏤(192)	庾(207)	弗(224)
錐(161)	髀(176)	檣(192)	駢(210)	苟(224)
囊(161)	跛(177)	抉(192)	櫪(210)	辟(224)
漚(161)	屏(177)	剉(192)	鳴(211)	侈(224)
勿(161)	臥(179)	尸(192)	蓮(212)	曳(225)
矣(163)	郭(179)	憐(193)	敦(212)	馮(227)
兮(163)	翰(179)	帳(193)	頤(212)	裹(228)
燕(164)	爛(179)	杜(194)	蕃(212)	薑(228)
蕪(164)	楷(179)	甫(194)	牡(212)	儲(228)
盍(165)	杞(179)	碧(194)	淤(212)	懊(228)
莫(165)	耶(180)	逾(194)	漣(212)	囊(229)
賈(168)	擯(182)	鸛(195)	蔓(212)	牀(229)
驢(168)	鄙(182)	鵲(195)	褻(212)	齎(231)
尹(168)	靖(184)	渙(195)	翫(212)	蛤(231)
愈(168)	嬰(184)	渭(197)	噫(212)	蛭(231)
乃(168)	薛(184)	浥(197)	芙(214)	艘(231)
轡(168)	孟(184)	楓(198)	蓉(214)	恙(231)
曰(168)	裘(184)	葡(199)	孔(216)	饋(231)
僥(169)	函(185)	苟(199)	烹(216)	卿(231)
倖(169)	魏(185)	坼(200)	侑(216)	飫(231)
蘇(170)	鮑(188)	坤(200)	罕(216)	叢(231)
謂(170)	穎(188)	戎(200)	堯(216)	荻(232)
蚌(170)	桓(188)	憑(200)	陬(216)	<u>近代以降の文章編</u>
曝(170)	匡(188)	涕(200)	蔡(216)	蠅(237)
鷗(170)	忽(189)	泗(200)	荀(217)	晰(238)
啄(170)	羞(189)	遶(201)	寓(217)	樺(238)
箝(170)	邑(190)	蓬(201)	慍(218)	揉(240)
喙(170)	闔(191)	玆(201)	踰(218)	烏(240)
并(170)	廬(191)	闕(202)	矩(218)	辻(240)
擒(170)	誅(191)	稹(203)	罔(219)	箔(240)
敝(171)	郢(191)	焰(203)	殆(219)	狐(240)
鍾(172)	讎(191)	幢(203)	孰(219)	狸(240)
哉(172)	椒(192)	謫(203)	也(219)	棲(240)
巍(172)	妾(192)	徧(205)	毅(220)	鴟(241)
俄(174)	齧(192)	樽(205)	訥(220)	糞(241)
匱(174)	賂(192)	徂(205)	恕(220)	襖(242)
馴(174)	范(192)	徠(205)	躬(220)	衫(244)

鞘(244)	蝶(289)	檣(301)
檜(245)	斫(289)	迢(301)
虱(246)	繫(289)	笏(302)
弩(247)	靡(289)	曼(303)
拗(248)	縋(290)	楸(303)
墓(249)	挽(290)	邨(303)
偷(252)	此(290)	鰓(303)
摺(254)	或(290)	曆(305)
鬘(254)	淋(290)	萬(305)
逗(259)	夥(291)	諍(306)
蟻(260)	惚(291)	贅(306)
蘆(264)	仇(291)	吊(306)
厩(268)	丑(291)	喋(308)
藁(268)	倚(291)	鍼(309)
馭(268)	凭(291)	蓑(312)
桂(270)	葺(291)	蟹(312)
几(273)	庇(291)	孵(315)
簀(274)	烟(291)	
饒(276)	憐(292)	
腑(276)	饑(293)	
埒(277)	叉(293)	
狼(279)	繫(294)	
咆(279)	蔓(294)	
哮(279)	藉(294)	
檣(280)	衾(294)	
樅(280)	皐(295)	
呆(282)	魄(296)	
愕(283)	蟬(297)	
躊(285)	犀(297)	
蹒(285)	瓮(298)	
靄(285)	趺(298)	
遁(286)	翳(298)	
迨(288)	廂(298)	
遙(288)	鐸(298)	
賤(288)	智(299)	
鬚(288)	窗(299)	
槌(288)	艸(299)	
兔(289)	薈(300)	
云(289)	薇(300)	
蝴(289)	髭(300)	

音訓一覧表

<u>〔知〕のコミュニテ</u>			籠	ご	(25)	頼	よりの	(42)	失	う	(58)
<u>イヘ</u>			恨	ごん	(26)	局	つぼね	(42)	希	け	(59)
良	よし	(14)	作	な	(26)	思	おぼ	(42)	某	なにがし	(60)
故郷	まち	(14)	為	な	(26)	直衣	なほし	(42)	聖	しやう	(60)
明日	みらい	(14)	翁	おきな	(27)	立	だて	(42)	給	たま	(60)
太	おお	(17)	不	ず	(27)	率	ゐ	(45)	御	み	(60)
六	りく	(18)	后	こう	(27)	往	い	(45)	童	わらは	(61)
歌	が	(18)	全	まっと	(28)	去	い	(45)	書	がき	(62)
浮	うき	(19)	邪	か	(28)	居	を	(45)	傾	かたぶ	(62)
草	ぞう	(19)	若	ごと	(29)	侍	はべ	(45)	望	もち	(62)
忠	ただ	(20)	処	を	(29)	沙	しゃ	(46)	椎	しひ	(63)
度	のり	(20)	悪	にく	(29)	隆	たか	(46)	居	おり	(64)
平	たひらの	(20)	幾	ちか	(29)	坂	ばん	(46)	宣	のり	(64)
原	わらの	(20)	与	くみ	(29)	前	せん	(46)	勝	かつ	(64)
俊	とし	(20)	選	ぜん	(30)	浪	なみ	(46)	雅	みや	(64)
成	なり	(20)	詞	ことば	(30)	(下)野	しもつけ	(48)	花	はなの	(65)
集	じふ	(20)	貞	じょう	(30)				愛	め	(65)
入	にっ	(20)	田	だの	(30)	薦	こも	(48)	二月	きさらぎ	
証	あか	(20)	礼	れ	(30)	朝	あした	(48)			(65)
誰	た	(21)	太	おおの	(30)	止	とど	(48)	春	とう	(65)
標	すえの	(22)	万	ま	(30)	提	だい	(48)	参	ま	(65)
女	むすめ	(22)	侶	ろ	(30)	現	うつつ	(51)	光	ひかる	(65)
氏	じ	(22)	<u>古文編</u>			我妹子	わぎもこ		枕	まくらの	(66)
后	きさき	(22)	勢	せ	(31)			(51)	銀	しろがね	(68)
帝	みかど	(22)	児	ちご	(34)	夢	いめ	(51)	主	しゆう	(68)
前	さき	(23)	検	け	(40)	今夜	こよい	(51)	従	ず	(68)
御	おほん	(23)	明	あきら	(40)	造	みやつこ	(52)	者	さ	(68)
男	をのこ	(23)	童	わらん	(40)	取	とり	(53)	経	ふ	(68)
皇	み	(23)	部	べ	(40)	性	さが	(53)	隙	ひま	(68)
子	ご	(24)	並	な	(41)	光	みつ	(54)	九月	ながつき	
部	べの	(24)	訓	きん	(42)	御	お	(54)			(69)
出	い	(24)	和泉	いづみ	(42)	安芸	あき	(54)	透	すい	(70)
大蛇	おろち	(25)	保	やす	(42)	徒然	つれづれ		垣	がい	(70)
男	おの	(25)	妻	め	(42)			(56)	紀	きの	(72)
命	みこと	(25)	合	あはせ	(42)	諸	もろ	(57)	貫	つら	(72)
売	め	(25)	部	ぶの	(42)	弥	み	(58)	日	に	(72)
出雲	いづも	(25)	侍	し	(42)	歩	あり	(58)	十二月	しはす	(72)

県	あがた	(72)	酒	き	(102)	候	さうら	(109)	思	も	(118)
年	とせ	(72)	賜	たま	(102)	見	げん	(111)	所	ところの	(119)
館	たち	(72)	三月	やよひ	(102)	入	いり	(111)	物	ものの	(119)
酔	ゑ	(73)	髪	ぐし	(102)	剛	かう	(113)	原	はらの	(120)
十	そ	(76)	正月	むつき	(102)	(蒲)生	かまふ		行	ゆき	(120)
今	こ	(77)	候	さぶら	(102)		(116)		宗	むね	(121)
女	をむな	(77)	理	ことわり	(104)	遊獵	みかり	(116)	則	のり	(121)
破	や	(54)	猛	たけ	(104)	額	ぬか	(116)	毎	ごと	(121)
暖簾	のれん	(80)	承	じよう	(104)	田	たの	(116)	野	のの	(121)
悪	あ	(83)	将	まさ	(104)	王	おほきみ	(116)	寝	ぬ	(121)
斎	いむ	(83)	慶	ぎやう	(104)	標	しめ	(116)	郷	きやうの	(122)
園	をん	(85)	純	すみ	(104)	我	あれ	(116)	鳥	と	(122)
朝臣	あつそん		前	さきの	(105)	柿	かきの	(116)	上	じやうの	(123)
		(85)	太	だい	(105)	本	もとの	(116)	冬	ふゆの	(123)
盛	もり	(85)	曾	そ	(106)	朝臣	あそみ	(116)	式	しよく	(123)
在	あり	(89)	源	みなもとの		石	いは	(116)	尋	ひろ	(127)
業	なり	(89)		(106)		辺	へ	(116)	陸奥	むつ	(127)
東	あづま	(89)	義	よし	(106)	荒(磯)	ありそ		即	すなわ	(127)
八	やつ	(92)	頼	より	(106)		(116)		賀	かの	(127)
乾	かれ	(92)	朝	とも	(106)	万	よろづ	(117)	城	き	(127)
飯	いひ	(92)	経	つね	(106)	離	さか	(117)	憶	おぼ	(128)
修	す	(93)	乳母	めのと	(106)	菱	しな	(117)	居	お	(129)
者	ざ	(93)	井	いの	(106)	我	あ	(117)	信	まこと	(130)
武蔵	むさし	(94)	馬	まの	(106)	近江	あふみ	(117)	夫	お	(133)
総	ふさ	(94)	直垂	ひたたれ		山	やまの	(117)	百	はく	(134)
魚	いを	(95)		(106)		上	うへの	(117)	去年	こぞ	(134)
旅籠	はたご	(96)	威	をどし	(106)	良	らの	(117)	股	もも	(134)
徒歩	かち	(96)	甲	かぶと	(106)	臣	おみ	(117)	杉	さん	(135)
妹	いも	(97)	滋	しげ	(106)	紀伊	きの	(118)	七	なぬ	(135)
誰	たれ	(97)	黄	きん	(106)	幸	いでま	(118)	住	ぢゆ	(135)
本	ほ	(97)	予	よの	(107)	宿	すく	(118)	途	ど	(135)
河内	かふち	(98)	守	かみ	(107)	鶴	たづ	(118)	途	みち	(135)
郡	こほり	(98)	甲(斐)	かひ	(107)	貴	きの	(118)	直	すぐ	(137)
粧	さう	(98)	条	でうの	(107)	垂	たる	(118)	違	たが	(137)
半	は	(98)	衛	ゑの	(107)	伴	ともの	(118)	良	ら	(137)
指	および	(101)	佐	すけ	(107)	家	やか	(118)	栄	え	(139)
離	か	(101)	実	さね	(108)	持	もち	(118)	秀	ひで	(139)
水	み	(102)	師	もろ	(109)	児	こ	(118)	衡	ひら	(139)
親王	みこ	(102)	重	しげ	(109)	防人	さきもり		泰	やす	(140)
頭	かみ	(102)	塚	づかの	(109)		(118)		兵	つはもの	(140)

兼	かね	(140)	当	まさ…べ	(164)	若	し	(182)	可	き	(193)
白毛	しらが	(140)	応	まさ…べ	(164)	寧	むし	(182)	為	つく	(193)
棺	ひつぎ	(140)	宜	よろ…べ	(164)	是	ここ	(182)	然	も	(194)
七	しつ	(140)	須	すべか…べ		納	い	(184)	看	みすみす	(194)
金	こがね	(140)			(165)	質	ち	(184)	何	いづ	(194)
記念	かたみ	(140)	猶	な…ごと	(165)	囚	とら	(184)	是	こ	(194)
者	は	(145)	如	し	(167)	抵	いた	(184)	依	よ	(195)
能	よ	(145)	縁	よ	(167)	姫	き	(184)	早	つと	(196)
孔	く	(145)	由	よ	(167)	蓋	けだ	(184)	還	かへ	(196)
字	あざな	(145)	見	あらは	(167)	釈	ゆる	(184)	住	や	(196)
遂	つひ	(145)	騎	の	(168)	尽	ことごと	(185)	到	いた	(198)
以	もつ	(145)	衝	あ	(168)	頃	けい	(185)	醉	ゑ	(199)
妻	めあは	(145)	具	つぶさ	(168)	怨	うら	(185)	回	かへ	(199)
日	ひび	(145)	佳	よ	(168)	少	わか	(188)	乾	けん	(200)
不	ぎ	(145)	今者	いま	(170)	終	つひ	(188)	征	ゆ	(201)
随	したが	(145)	方	まさ	(170)	事	つか	(188)	揮	ふる	(201)
別	べち	(147)	即	すなは	(170)	謀	はかりごと		憶	おも	(202)
与	と	(147)	肯	がへ	(170)			(188)	夕	ゆふべ	(202)
須	しゅ	(147)	舍	す	(170)	困	くる	(188)	猶	な	(202)
可	べ	(147)	方	あ	(172)	貪	たん	(189)	比	こ	(203)
度	はか	(147)	少選	しばらく		見	る	(189)	名詩集	アンソロ	
頃	しばらく	(148)			(172)	逐	お	(189)	ジー		(204)
度	わた	(148)	湯	しやう	(173)	顚	あらは	(189)	与	とも	(207)
但	た	(148)	復	ま	(173)	世	よよ	(189)	食	やしな	(210)
前	すす	(148)	以為	おもへ	(173)	有	たも	(190)	策	むち	(210)
則	すなは	(148)	狙	さる	(174)	者	こと	(190)	呼	あ	(179)
養	や	(156)	充	み	(174)	為	た	(190)	来	このかた	(212)
漢文編			先	ま	(174)	奔	はし	(191)	濯	あら	(212)
自	よ	(158)	若	なんぢ	(174)	以	ひき	(191)	妖	えう	(212)
易	やす	(159)	起	た	(174)	赦	ゆる	(192)	益	ますます	(212)
即	つ	(159)	亡	に	(176)	反	かへ	(192)	淨	きよ	(212)
員	うん	(160)	何(遽)	なん	(176)	胆	きも	(192)	植	た	(212)
若	も	(160)	将	ひき	(176)	女	なんぢ	(192)	鮮	すくな	(212)
未	いま	(160)	馬	め	(176)	属	しよく	(192)	宜	むべ	(212)
数	しばしば	(161)	能	あた	(176)	種	しよう	(192)	衆	おほ	(213)
未	いま…ず	(162)	墮	お	(176)	樹	う	(192)	治	や	(216)
止	や	(163)	援	くわん	(180)	觀	み	(192)	尼	じ	(216)
且	まさ…す	(164)	然	しか	(180)	命	なづ	(193)	令	りよう	(217)
伐	う	(164)	道	おも	(181)	北	に	(193)	説	よろこ	(218)
将	まさ…す	(164)	往	ゆ	(182)	成	たひらぎ	(193)	順	したが	(218)

対	こた	(219)	鶏	とり	(248)	余沢	かげ	(288)		(291)	
遷	うつ	(219)	検	け	(248)	差別	けぢめ	(288)	蔵裏	くり	(291)
式	ふたた	(219)	奪	と	(249)	塗	ぬり	(288)	水内	みのち	(291)
是	これ	(220)	太刀帯	たてわき		売	うり	(288)	銀杏	いてふ	(291)
中	うち	(220)			(249)	貯	たくは	(288)	経	へだ	(291)
古	いにしへ	(221)	往	い	(249)	小	こう	(288)	眼	めの	(291)
路	みち	(224)	疫病	えやみ	(249)	通路	どほり	(288)	造	づくり	(291)
(焉)耳(矣)	のみ		洞	とう	(251)	公家	くげ	(288)	除	よけ	(291)
		(225)	城	せい	(253)	衆	しゅ	(288)	旧	ふる	(291)
如	ごと	(225)	層	こし	(253)	車夫	くるまや		光景	ありさま	
喩	たと	(225)	摂津	つ	(253)			(288)			(291)
棄	す	(225)	主	あるじ	(254)	暫	しばら	(289)	建築物	たてもの	
何如	いかん	(226)	衣	きぬ	(254)	一	ひ	(289)			(291)
直	た	(226)	奪	ば	(254)	先	まづ	(289)	者	しゃの	(292)
如	も	(226)	直	なお	(256)	吹	ふき	(289)	自家	うち	(292)
真	ざね	(228)	城	きの	(256)	辺	あたり	(289)	可愛	かは	(292)
消	せう	(228)	斑	ふ	(258)	故	せゐ	(289)	何時	いつ	(292)
息	そこ	(228)	円	まる	(258)	軍	いくさ	(289)	処	ところ	(292)
著	ちやく	(228)	有	あり	(267)	為	し	(289)	益々	ますます	
樹	き	(228)	武	たけ	(267)	落	おち	(290)			(292)
被	ら	(228)	郎	お	(267)	宣	のたま	(290)	丘	く	(293)
教	し	(228)	生	うま	(267)	辞	いな	(290)	悔	げ	(293)
陽	あたた	(229)	網	あ	(267)	流石	さすが	(290)	香	かをり	(294)
空	むな	(230)	肢	あし	(268)	偽	いつはり	(290)	群	むれ	(294)
箇	こ	(231)	陽炎	かげろう		衝	つ	(290)	浅	あさ	(295)
諸	これ	(231)			(270)	起	おこ	(290)	曲	くま	(295)
康	やす	(232)	母	か	(272)	等	ら	(290)	充	み	(296)
吉	よし	(232)	駄	た	(272)	承	うけたま	(290)	生	う	(297)
側	そば	(232)	蚕	ご	(272)	立	たち	(290)	好	よし	(298)
近代以降の文章編			買	がい	(272)	出	いづ	(290)	謝	さ	(300)
丹	に	(240)	肉	じし	(275)	風説	うわさ	(290)	晶	あき	(300)
朱	す	(240)	眼	まな	(282)	美	み	(290)	節	たかし	(300)
帽	ぼ	(240)	砂	じゃ	(283)	有	あり	(290)	馬追虫	うまおひ	
料	しろ	(240)	素面	すがお	(284)	処	こ	(290)			(300)
申	さる	(242)	婆	ばば	(284)	現象	さま	(290)	想	おも	(300)
築土	ついじ	(243)	怒	ぬ	(285)	唯	ただ	(290)	舗	しき	(301)
汗(衫)かざみ	(244)		氣質	かたぎ	(288)	恥	はづ	(290)	哀	かな	(301)
聖	ひじり	(244)	変	かは	(288)	篤	あつ	(291)	玄鳥	つばくらめ	
柄	づか	(244)	時勢	ころほひ		華	げ	(291)			(301)
(檜)皮ひわだ	(245)				(288)	転宿	やどがへ		屋梁	はり	(301)

足乳根	たらちね	母	も	(305)	停	と	(308)	身体	からだ	(314)	
	(301)	飾	しか	(305)	掌	てのひら	(311)	瞬	まばた	(314)	
男	お	(303)	原	わら	(305)	留	とど	(313)	歳	とし	(316)
清	しん	(305)	海老	えび	(306)	微(塵)	みじん				
信	しの	(305)	慎	つつ	(308)		(313)				

出典一覧表

※原文に加除訂正を加えた場合の中で、「高等学校教科用図書検定基準 別表」による表記の変更、および学習しやすくするための振り仮名等の加除、改行、句読点の加除等は除いた。

(古文編)

申請図書			出典					備考
名称	種別	名称	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
14～15	SAKURA（いきものがかり）	国語教材	いきものばかり～メンバーズBESTセレクション～（CD）	3（CD 付属歌詞カード）	いきものがかり	エピックレコードジャパン	平成22年（2010年）	
16～29	ことばが運ぶ文化の記憶―近代・近世・中世・中古・上代・漢文 吾輩は猫である	国語教材	定本 漱石全集 第一巻（第2刷）	3	夏目金之助	岡本 厚（発行者 岩波書店）	平成29年（2017年）	梗概文・解説は編修委員による書き下ろし
16		国語教材	鷗外全集 第一巻（初版）	426	森田太郎	岩波雄二郎（発行者 岩波書店）	昭和46年（1971年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
17	舞姫	国語教材	芭蕉文集（日本古典文学大系46 第11刷）	206	（校注） 杉浦正一郎・宮本三郎・荻野 清	岩波雄二郎（発行者 岩波書店）	昭和44年（1969年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
18	柴門の辞	国語教材	井原西鶴集②（第1版第1刷）	19	（校注・訳） 宗政五十緒・松田 修・暉峻康隆	上野明雄（発行者 小学館）	平成8年（1996年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
19	西鶴諸国はなし	国語教材	平家物語②（新編日本古典文学全集46 第1版第4刷）	75	（校注・訳） 市古貞次	柳町敬直（発行者 小学館）	平成16年（2004年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
20	平家物語	国語教材	方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄（新編日本古典文学全集44 第1版第1刷）	15	（校注・訳） 神田秀夫・永積安明・安良岡康作	天野博之（発行者 小学館）	平成7年（1995年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
21	方丈記	国語教材	和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記（新編日本古典文学全集26 第1版第1刷）	298	（校注・訳） 藤岡忠美・中野幸一・犬養 廉・石井文夫	天野博之（発行者 小学館）	平成6年（1994年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
22	更級日記	国語教材	源氏物語①（新編日本古典文学全集20 第1版第1刷）	18	（校注・訳） 阿部秋生・秋山 虔・今井源衛・鈴木日出男	渡邊静夫（発行者 小学館）	平成6年（1994年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
23	源氏物語	国語教材	萬葉集①（新編日本古典文学全集6 第1版第1刷）	198	（校注・訳） 小島憲之・木下正俊・東野治之	渡邊静夫（発行者 小学館）	平成6年（1994年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
24	万葉集	国語教材	古事記（新編日本古典文学全集1 第1版第7刷）	73	（校注・訳） 山口桂紀・神野志隆光	八巻孝夫（発行者 小学館）	平成19年（2007年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
25	古事記	国語教材	白氏文集	272～273		京都大学人文科学研究所	昭和46年（1971年）	梗概文・書き下し文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
26	長恨歌	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	212	目加田誠	三樹 彰（発行者 明治書院）	昭和57年（1982年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
27	白頭を悲しむ翁に代る	国語教材	史記八（列伝一）（新釈漢文大系 第19巻 30版）	37	目加田誠	三樹 彰（発行者 明治書院）	平成6年（1994年）	梗概文・傍訳・解説は編修委員による書き下ろし
28	史記	国語教材						

29	老子	国語教材	大系 第88巻 3版) 老子・莊子 (上) (新釈漢文 大系 第7巻 19版)	23	目加田誠	三樹 彰 (発行所 明治書院)	昭和50年 (1975年)	書き下ろし 梗概文・傍訳・解説は編修委員による 書き下ろし
32	古典と文化	国語教材 写真						編修委員による書き下ろし Gettyイメージズ提供
33	古文と古語	国語教材 写真						編修委員による書き下ろし Gettyイメージズ提供
34・35	児のそら寝〔宇治拾遺物語〕	国語教材	宇治拾遺物語 (日本古典文学 全集28 第13版)	73・74	(校注・訳) 小林智昭	相賀徹夫 (発行所 小学館)	昭和60年 (1985年)	傍訳は編修委員による書き下ろし 本文改変あり (別紙①) サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
35	比叡山延暦寺	写真						
37～39	文法の基礎・1	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
40・41	検非違使忠明のこと〔宇治拾遺物語〕	国語教材	宇治拾遺物語 (日本古典文学 全集28 第13版)	258	(校注・訳) 小林智昭	相賀徹夫 (発行所 小学館)	昭和60年 (1985年)	本文改変あり (別紙②)
40	清水の舞台	写真						サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
41脚注7	菰	挿絵						編集部作成
42・43	大江山〔十訓抄〕	国語教材	十訓抄 (新編日本古典文学全 集51 第1版第3刷)	122・123	(校注・訳) 浅見和彦	柳町敬直 (発行所 小学館)	平成15年 (2003年)	本文改変あり (別紙③)
42	定頼と小式部 (〔十訓抄〕板本の挿絵)	挿絵						国立国会図書館提供
43	天の橋立	写真						サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
44・45	文法の基礎・2	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
46	花盗人の歌〔沙石集〕	国語教材	沙石集 (日本古典文学大系85 第1刷)	228	(校注) 渡邊綱也	岩波雄二郎 (発行所 岩波書店)	昭和41年 (1966年)	本文改変あり (別紙④)
47	古典世界ビュー・①和歌	国語教材						編修委員による書き下ろし
48	鷹使いの見た夢〔沙石集〕	国語教材	沙石集 (日本古典文学大系85 第1刷)	310・311	(校注) 渡邊綱也	岩波雄二郎 (発行所 岩波書店)	昭和41年 (1966年)	本文改変あり (別紙⑤)
50・51	古典世界ワイドビュー・②夢 梁塵秘抄「仏は常に……」	国語教材 国語教材	神楽歌 催馬楽 梁塵秘抄 閑吟集 (新編日本古典文学全 集42 第1版第2刷)	191	(校注・訳) 白田甚五郎・ 新聞進一・ 外村南都子・ 徳江元正	柳町敬直 (発行所 小学館)	平成18年 (2006年)	編修委員による書き下ろし 訳は編修委員による書き下ろし
51	万葉集「我妹子が……」	国語教材	萬葉集④ (新編日本古典文学 全集9 第1版第6刷)	44	(校注・訳) 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	柳町敬直 (発行所 小学館)	平成18年 (2006年)	訳は編修委員による書き下ろし
51	「人の見て……」	国語教材	萬葉集③ (新編日本古典文学 全集8 第1版第7刷)	308	(校注・訳) 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	蔵 敏則 (発行所 小学館)	平成22年 (2010年)	訳は編修委員による書き下ろし
49	おしどりの雌 (手前) と雄 (奥)	写真						イメージナビ提供
50	夢に観音が現れる (石山寺縁起絵巻)	挿絵						石山寺提供
51		挿絵						編集部作成
52	文法の基礎・3	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
53	コラム・1	国語教材						編修委員による書き下ろし
54・55	古文解析の実際 (海賊の感泣)	国語教材	十訓抄 (新編日本古典文学全 集51 第1版第3刷)	416・417	(校注・訳) 浅見和彦	柳町敬直 (発行所 小学館)	平成15年 (2003年)	傍訳は執筆協力者による書き下ろし
56	徒然草「つれづれなるままに」	国語教材	方丈記 徒然草 (日本古典文 学大系30 第29刷)	89	(校注) 西尾 實	緑川 亨 (発行所 岩波書店)	昭和59年 (1984年)	本文改変あり (別紙⑥)
56・57	「ある人、弓射ることを習ふに」	国語教材	同書	164・165				
58・59	「奥山に猫またといふもの」	国語教材	同書	161・162				

60・61 62・63 64	「丹波に出雲といふ所あり」 「花は盛りに」 兼好法師が詞のあげつらひ〔玉勝間〕	国語教材 国語教材 国語教材	同書 同書 本居宣長（日本思想大系40 第3刷）	278・279 201・202 135・136	(校注) 吉川幸次郎・ 佐竹昭広・ 日野龍夫	緑川 亨（発行所 岩波書店）	昭和55年（1980年）	
65 65	古典世界ワイドビュー・③桜 源氏物語「花宴」（冒頭）	国語教材 国語教材	源氏物語①（新編日本古典文 学全集20 第1版第1刷）	353	(校注・訳) 阿部秋生・ 秋山 虔・ 今井源衛・ 鈴木日出男	渡邊静夫（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	編修委員による書き下ろし 訳は編修委員による書き下ろし
59 60脚注8 60脚注8 61 65 65	「徒然草」第八十九段（奈良絵本） 獅子 狛犬 「徒然草」第二百三十六段（奈良絵本） ヤマザクラ 「花宴」（源氏物語図）	挿絵 写真 写真 挿絵 写真 挿絵						名古屋市蓬左文庫提供 大國魂神社提供 大國魂神社提供 名古屋市蓬左文庫提供 アマナイメーجز提供 大分市歴史資料館提供
66・67	枕草子「春はあけぼの」	国語教材	枕草子 紫式部日記（日本古 典文学大系19 第27刷）	43・44	(校注) 池田亀鑑・ 岸上慎二・ 秋山 虔	緑川 亨（発行所 岩波書店）	昭和60年（1985年）	本文改変あり（別紙㉗）
68 70 69 66 67脚注6 70	「ありがたきもの」 「九月ばかり」 「枕草子」の特色 萩の花	国語教材 国語教材 国語教材 写真 挿絵 写真	同書 同書	109・110 184				編修委員による書き下ろし ゲッティイメージズ提供 編集部作成 アフロ提供
72・73	土佐日記「門出」	国語教材	土佐日記 蜻蛉日記 紫式部 日記 更級日記（新 日本古典 文学大系24 第1刷）	3	(校注) 長谷川政春・ 今西祐一郎・ 伊藤 博・ 吉岡 曠	緑川 亨（発行所 岩波書店）	平成元年（1989年）	本文改変あり（別紙㉘）
75・76 77・78 74 72 73 74	「かしらの雪」 「帰京」 古典世界ビュー・④任官 紀貫之（佐竹本三十六歌仙絵巻模写） 瀬戸内海航行（北野天神縁起絵巻） 「土佐日記」旅程図	国語教材 国語教材 国語教材 挿絵 挿絵 地図	同書 同書	18・19 32・33				編修委員による書き下ろし 中野幸一氏提供 北野天満宮提供 編集部作成
80 80 81	コラム・2 『土佐日記』冒頭（藤原為家ら筆）	国語教材 挿絵 写真						編修委員による書き下ろし 編集部作成 大阪青山歴史文学博物館提供
82・83	竹取物語「なよ竹のかぐや姫」	国語教材	竹取物語 伊勢物語 大和物 語 平中物語（新編日本古典 文学全集12 第1版第1刷）	17～19	(校注・訳) 片桐洋一・ 福井貞助・ 高橋正治・ 清水好子	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	本文改変あり（別紙㉙）
86～88 84 83 84	「かぐや姫の嘆き」 古典世界ビュー・⑤成人式 籠の中のかぐや姫（竹取物語絵巻） 成人後、求婚を受けるかぐや姫（竹取物 語絵巻）	国語教材 国語教材 挿絵 挿絵	同書	65～67				梗概文は執筆協力者による書き下ろし 編修委員による書き下ろし 中野幸一氏提供 慶應義塾大学メディアセンター提供

88	月を見て嘆くかぐや姫（竹取物語絵巻）	挿絵						吉田幸一氏提供
85	コラム・3	国語教材						編修委員による書き下ろし
89	構成と概観「伊勢物語」	国語教材						編修委員による書き下ろし
89	在原業平（佐竹本三十六歌仙絵）	挿絵						湯木美術館提供
90	伊勢物語「芥川」	国語教材	竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語（新編日本古典文学全集12 第1版第1刷）	117・118	(校注・訳) 片桐洋一・ 福井貞助・ 高橋正治・ 清水好子	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	本文改変あり（別紙⑩）
92～95	「東下り」	国語教材	同書	120～123				
97～99	「筒井筒」	国語教材	同書	135～138				
100・101	「粹弓」	国語教材	同書	138～140				
102・103	「小野の雪」	国語教材	同書	186・187				
91	古典世界ビュー・⑥鬼	国語教材						編修委員による書き下ろし
90	芥川（奈良絵本）	挿絵						中野幸一氏提供
90脚注4		挿絵						編集部作成
91	「見える」ものとして描かれる鬼（異本伊勢物語絵巻[模本]）	挿絵						東京国立博物館提供
92	八橋（奈良絵本）	挿絵						中野幸一氏提供
92脚注5		写真						サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
93	宇津の山（奈良絵本）	挿絵						中野幸一氏提供
94	都鳥（奈良絵本）	挿絵						中野幸一氏提供
94脚注6		写真						サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
94脚注7		写真						サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
97	筒井筒（小林古径筆）	挿絵						東京藝術大学提供
97脚注4		挿絵						編集部作成
98	前栽の中に隠れる男（伊勢物語図色紙）	挿絵						斎宮歴史博物館提供
96	コラム・4	国語教材						編修委員による書き下ろし
96	「伊勢物語」（奈良絵本）	挿絵						広島大学図書館提供
104・105	平家物語「祇園精舎」	国語教材	平家物語①（新編日本古典文学全集45 第1版第1刷）	19	(校注・訳) 市古貞次	渡邊静夫（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	本文改変あり（別紙⑪）
106～113	「木曽の最期」	国語教材	平家物語②（新編日本古典文学全集46 第1版第1刷）	177～182	(校注・訳) 市古貞次	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	梗概文は編修委員による書き下ろし
105	琵琶法師（職人尽歌合模本）	挿絵						東京国立博物館提供
106	源氏人物系図	図						編集部作成
107	武具	挿絵						編集部作成
107	馬具	挿絵						編集部作成
108	巴（奈良絵本）	挿絵						永青文庫提供
111	木曽の最期（平家物語絵巻）	挿絵						林原美術館提供
112	義仲進撃路	地図						編集部作成
114・115	コラム・5	国語教材						編修委員による書き下ろし
115	信貴山縁起絵巻	挿絵						信貴山 朝護孫子寺提供
116	万葉集「あかねさす……」	国語教材	萬葉集①（新編日本古典文学全集6 第1版第1刷）	37	(校注・訳) 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	渡邊静夫（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	本文改変あり（別紙⑫）
116	「紫の……」	国語教材	同書	37				
116・117	「石見の海……」	国語教材	同書	100・101				
117	「石見のや……」	国語教材	同書	101				
117	「笹の葉は……」	国語教材	同書	101・102				

117	「近江の海……」	国語教材	同書	180				
117	「憶良らは……」	国語教材	同書	206				
118	「若の浦に……」	国語教材	萬葉集②（新編日本古典文学全集7 第1版第1刷）	109・110	（校注・訳） 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	天野博之（発行所 小学館）	平成7年（1995年）	
118	「石走る……」	国語教材	同書	293				
118	「うらうらに……」	国語教材	萬葉集④（新編日本古典文学全集9 第1版第1刷）	364	（校注・訳） 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	上野明雄（発行所 小学館）	平成8年（1996年）	
118	「多摩川に……」	国語教材	萬葉集③（新編日本古典文学全集8 第1版第2刷）	465	（校注・訳） 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	上野明雄（発行所 小学館）	平成8年（1996年）	
118	「防人に……」	国語教材	萬葉集④（新編日本古典文学全集9 第1版第1刷）	423	（校注・訳） 小島憲之・ 木下正俊・ 東野治之	上野明雄（発行所 小学館）	平成8年（1996年）	
125	柿本人麻呂（伝藤原信実筆）	挿絵						京都国立博物館提供
125	憶良の家（安田靱彦筆）	挿絵						安田健一氏提供
125	大伴家持（三十六歌仙絵）	挿絵						藤田美術館提供
119	構成と概観「古今和歌集」	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
120	古今和歌集「袖ひちて……」	国語教材	古今和歌集（新 日本古典文学大系5 第1刷）	19	（校注） 小島憲之・ 荒井栄蔵	緑川 亨（発行所 岩波書店）	平成元年（1989年）	
120	「世の中に……」	国語教材	同書	33				
120	「五月待つ……」	国語教材	同書	57				
120	「秋来ぬと……」	国語教材	同書	65				
121	「山里は……」	国語教材	同書	105				
121	「雪降れば……」	国語教材	同書	111				
121	「思ひつつ……」	国語教材	同書	174				
121	「世の中は……」	国語教材	同書	281				
121	小野小町（女歌仙）	挿絵						中野幸一氏提供
122	新古今和歌集「見渡せば……」	国語教材	新古今和歌集（新 日本古典文学大系11 第1刷）	29	（校注） 田中 裕・ 赤瀬信吾	安江良介（発行所 岩波書店）	平成4年（1992年）	
122	「春の夜の……」	国語教材	同書	30				
122	「昔思ふ……」	国語教材	同書	74				
123	「寂しさは……」	国語教材	同書	117				
123	「心なき……」	国語教材	同書	117				
123	「見渡せば……」	国語教材	同書	117				
123	「志賀の浦や……」	国語教材	同書	191				
123	「玉の緒よ……」	国語教材	同書	310				
122	後鳥羽上皇（新三十六歌仙図帖）	挿絵						東京国立博物館提供
127～132	場所の記憶を残す恋歌	国語教材	風景論（初版）	80～86	港 千尋	松田陽三（発行所 中央公論新社）	平成30年（2018年）	
129	末の松山（宮城県多賀城市）	写真						アフロ提供
134・135	奥の細道「旅こそ栖」	国語教材	松尾芭蕉集②（新編日本古典文学全集71 第1版第3刷）	75・76	（校注・訳） 井本農一・ 久富哲雄・ 村松友次・ 堀切 実	柳町敬直（発行所 小学館）	平成15年（2003年）	本文改変あり（別紙⑬）

137 139・140 136 134 136 138 139 140 140 141	「那須野の少女」 「平泉懷古」 古典世界ビュー・⑦旅と紀行文 「芭蕉像」（奥村土牛筆） 「奥の細道屏風〈旅立ち部分〉」（蕪村筆） 那須野（蕪村筆「奥の細道画卷」） 平泉付近図 金色堂内部 金色堂外観 「奥の細道」旅程図	国語教材 国語教材 国語教材 挿絵 挿絵 挿絵 地図 写真 写真 地図	同書 同書	80・81 99・100				編修委員による書き下ろし 藤田三男編集事務所提供 山形美術館提供 逸翁美術館提供 編集部作成 中尊寺提供 中尊寺提供 編集部作成
142・143	コラム・6	国語教材						編修委員による書き下ろし
144・145 145 144脚注3	簫史と弄玉〔唐物語〕 簫史（列仙伝）	国語教材 国語教材 挿絵	唐物語（講談社学術文庫 第1刷） 穆天子伝・漢武故事・神異経・山海経他〈漢・魏〉（中国古典小説選1 初版）	96・97 42	小林保治 （編） 竹田 晃・黒田真美子	野間佐和子（発行所 講談社） 三樹 敏（発行所 明治書院）	平成15年（2003年） 平成19年（2007年）	本文改変あり（別紙⑭） 編集部作成
146・147 147・148 146脚注2	怪を語れば怪至る〔伽婢子〕 夜坐談鬼而怪至（龍城録）	国語教材 国語教材 挿絵	伽婢子（新 日本古典文学大系 75 第1刷） 説郛 正巻第26（早稲田大学図書館所蔵下村文庫）	395～396 龍城録7～8	（校注） 松田 修・渡辺守邦・花田富二夫	大塚信一（発行所 岩波書店）	平成13年（2001年）	本文改変あり（別紙⑮） 編集部作成
149～151 152・153 154・155 156	文法の要点・1 文法の要点・2 文法の要点・3 文法の要点・4	国語教材 国語教材 国語教材 国語教材						執筆協力者による書き下ろし 執筆協力者による書き下ろし 執筆協力者による書き下ろし 執筆協力者による書き下ろし

〔漢文編〕								
158 158	漢文を学習すること	国語教材 写真						編修委員による書き下ろし Gettyイメージズ提供
159～167 168 169 169	漢文の基礎 推敲 古典世界ビュー・⑧科举 科举の発表風景（観榜図）	国語教材 国語教材 国語教材 挿絵	唐詩紀事校箋（初版）	1088	王 仲鏞	巴蜀書社	平成元年（1989年）	編修委員による書き下ろし 本文改変あり（別紙⑯） 編修委員による書き下ろし シーピーシー・フォト提供
170・171 171	漁父之利 春秋・戦国時代の中国	国語教材 地図	戦国策（下）（新釈漢文大系 第49巻 初版）	1315・1316	福田襄之介・森 熊男	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和63年（1988年）	本文改変あり（別紙⑰） 編集部作成
172・173 172	知音 泰山	国語教材 写真	呂氏春秋 中（新編漢文選2 初版）	376	楠山春樹	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成9年（1997年）	本文改変あり（別紙⑱） サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
174・175	朝三暮四	国語教材	列子（新釈漢文大系 第22巻 14版）	123・124	小林信明	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和51年（1976年）	本文改変あり（別紙⑲）
176・177 177 179	塞翁馬 「塞翁飼馬図屏風」（曾我蕭白筆） コラム・7	国語教材 挿絵 国語教材	淮南子（下）（新釈漢文大系 第62巻 再版）	1043	楠山春樹	三樹 彰（発行所 明治書院）	平成元年（1989年）	本文改変あり（別紙⑳） 三重県立美術館提供
180・181	漢文解析の実際（性緩）	国語教材	笑林・笑贊・笑府他〈歴代笑話〉（中国古典小説選12 初版）	310・311	（編） 竹田 晃・黒田真美子	三樹 敏（発行所 明治書院）	平成20年（2008年）	編修委員による書き下ろし 傍訳は執筆協力者による書き下ろし

182	鶏口牛後	国語教材	十八史略（上）（新釈漢文大系 第20巻 26版）	110・111	林 秀一	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和54年（1979年）	本文改変あり（別紙㉑）
184・185	鶏鳴狗盗	国語教材	十八史略（上）（新釈漢文大系 第20巻 26版）	97・98	林 秀一	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和54年（1979年）	本文改変あり（別紙㉒）
187 185 187	古典世界ビュー・⑨食客 函谷関の古道 孟嘗君（右）に、食客となることを願ひ出る（絵画本中国通史）	国語教材 写真 挿絵						編修委員による書き下ろし シーピーシー・フォト提供 シーピーシー・フォト提供
188～190	管鮑之交	国語教材	史記八（列伝一）（新釈漢文大系 第88巻 3版）	42・43	水沢利忠	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成6年（1994年）	本文改変あり（別紙㉓）
191～193	臥薪嘗胆	国語教材	十八史略（上）（新釈漢文大系 第20巻 26版）	58～60	林 秀一	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和54年（1979年）	本文改変あり（別紙㉔）
191	越王勾踐の剣	写真						シーピーシー・フォト提供
194	五言絶句「絶句」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	624	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	
195	「登鶴鵲樓」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	629	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	本文改変あり（別紙㉕）
196	七言絶句「早発白帝城」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	675・676	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	本文改変あり（別紙㉖）
197	「送元二使安西」	国語教材	三体詩（一）（中国古典選29第2刷）	164	村上哲見	木下秀男（発行所 朝日新聞社）	平成4年（1992年）	本文改変あり（別紙㉗）
198	「楓橋夜泊」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	751	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	
199	「涼州詞」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	664	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	
196 197 199脚注2	白帝城周辺図	地図 写真 写真						編集部作成 シーピーシー・フォト提供 シーピーシー・フォト提供
200	五言律詩「登岳陽樓」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	370	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	
201	「送友人」	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	326・327	目加田誠	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	
202	七言律詩「八月十五日夜、禁中独直、对月憶元九」	国語教材	白氏文集（三）（新釈漢文大系 第99巻 初版）	119・120	岡村 繁	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和63年（1988年）	
203	「聞白樂天左降江州司馬」	国語教材	唐詩選（初版第1刷）	250	石川忠久	安井正幸（発行所 東方書店）	平成元年（1989年）	
204～209	友情	国語教材	漢詩 美の在りか（岩波新書 第1刷）	87～95	松浦友久	大塚信一（発行所 岩波書店）	平成14年（2002年）	本文改変あり（別紙㉘）
204		写真						iStockphoto 提供
210・211	雑説	国語教材	唐宋八大家文読本（一）（新釈漢文大系 第70巻 4版）	95	星川清孝	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和55年（1980年）	本文改変あり（別紙㉙）
211	騎馬狩獵人物	写真						シーピーシー・フォト提供
212・213	愛蓮説	国語教材	古文真宝（後集）（新釈漢文大系 第16巻 22版）	84・85	星川清孝	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和50年（1975年）	
214 214 214 214	古典世界ビュー・⑩花 蓮の花 菊の花 牡丹の花	国語教材 写真 写真 写真						編修委員による書き下ろし アマナイメーグズ提供 アマナイメーグズ提供 アフロ提供
215 215	コラム・8	国語教材 挿絵						編修委員による書き下ろし 編集部作成
216・217	構成と概観「論語」	国語教材						編修委員による書き下ろし
218	論語 「子曰、『学而時習……」	国語教材	論語（新釈漢文大系 第1巻 改訂13版）	15	吉田賢抗	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	本文改変あり（別紙㉚）
218	「子曰、『吾十有五……」	国語教材	同書	40				

219	「子曰、『学而不思……」	国語教材	同書	52				
219	「哀公問、『弟子孰……」	国語教材	同書	128				
219	「曾子曰、『吾日三……」	国語教材	同書	20				
220	「子曰、『巧言令色……」	国語教材	同書	19				
220	「子曰、『剛毅木訥……」	国語教材	同書	301				
220	「子貢問曰、『有一……」	国語教材	同書	351				
220	「葉公語孔子曰、……」	国語教材	同書	293・294				
221	「子曰、『其身正、……」	国語教材	同書	286				
221	「子貢問政。子曰、……」	国語教材	同書	265				
223	古典世界ビュー・⑩儒教	国語教材						編修委員による書き下ろし
221	孔子	挿絵						サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
223	孔子講学図	挿絵						シーピーシー・フォト提供
223	孔廟大成殿（山東省曲阜市）	写真						イメージナビ提供
224	孟子 「孟子曰、『仁人心……」	国語教材	孟子（新釈漢文大系 第4巻46版）	399・400	内野熊一郎	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成6年（1994年）	本文改変あり（別紙㉑）
224・225	「孟子曰、『無恒産……」	国語教材	同書	40				
225・226	「梁恵王曰、『寡人……」	国語教材	同書	13・14				
227	コラム・9	国語教材						編修委員による書き下ろし
228	読家書	国語教材	菅家文草 菅家後集（日本古典文学大系72 第4刷）	506	川口久雄	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和46年（1971年）	本文改変あり（別紙㉒）
229	蚩	国語教材	詩集 日本漢詩 第9巻	184	（編）松下 忠・佐野正巳	坂本健彦（発行所 汲古書院）	昭和60年（1985年）	
230	無題	国語教材	漱石全集 第18巻	244	夏目金之助	安江良介（発行所 岩波書店）	平成7年（1995年）	本文改変あり（別紙㉓）
231	野中兼山	国語教材	先哲叢談 巻之二	23・24	原 念斎	和泉屋金右エ門	文化13年（1816年）	編修委員による書き下ろし
232	古典世界ビュー・⑫江戸期の漢学者	国語教材						ユニフォトプレス提供
232	野中兼山	写真						
233～235	漢文の要点・1	国語教材						編修委員による書き下ろし
236	漢文の要点・2	国語教材						編修委員による書き下ろし

（近代以降の文章編）

238・239	言語文化の近代―「自分」と外界	国語教材						編修委員による書き下ろし
239		写真						Getty Images提供
240～251	羅生門	国語教材	芥川龍之介全集 第一巻（第2刷）	127～136	芥川龍之介	緑川 亨（発行所 岩波書店）	昭和57年（1982年）	
253～255	羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと〔今昔物語集〕	国語教材	今昔物語集④（新編日本古典文学全集38 第1版第1刷）	384・385	（校注・訳）馬淵和夫・国東文麿・稲垣泰一	柳町敬直（発行所 小学館）	平成14年（2002年）	
240脚注4		挿絵						編集部作成
241	羅生門復元模型	写真						京都文化博物館提供
241脚注5		挿絵						編集部作成
241脚注9		写真						村田三二氏提供
242	平安京略図	地図						編集部作成
242脚注5		写真						編集部撮影
245脚注4		写真						アマナイイメージズ提供
247	「羅生門」原稿	写真						山梨県立文学館提供
256～266	城の崎にて	国語教材	志賀直哉（ちくま日本文学021 第2刷）	316～326	志賀直哉	菊池明郎（発行所 筑摩書房）	平成21年（2009年）	本文改変あり（別紙㉔）
257	城崎温泉周辺図	地図						編集部作成
257脚注6		写真						イメージナビ提供
258脚注6		写真						イメージナビ提供
259	志賀の逗留した宿	写真						城崎温泉三木屋提供

261 264脚注1	一の湯	写真 写真						絵葉書資料館提供 アマナイメージズ提供
268～277 275脚注2	蠅	国語教材 写真	定本 横光利一全集 第1巻 (初版)	187～195	横光利一	清水 勝 (発行所 河出書房新社)	昭和56年 (1981年)	サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供
279～286	猿が島	国語教材	太宰治全集2 (初版第1刷)	91～101	太宰 治	柏原成光 (発行所 筑摩書房)	平成10年 (1998年)	
288～292 288	文体の変遷—明治期の小説を通じて 当世書生気質 (冒頭)	国語教材 国語教材	坪内逍遙集 (日本近代文学大系 第3巻 7版)	223	(注釈) 中村 完・ 梅澤宣夫 (校注)	角川歴彦 (発行所 角川書店)	平成6年 (1994年)	編修委員による書き下ろし
289	浮雲 (末尾)	国語教材	坪内逍遙 二葉亭四迷集 (新日本古典文学大系 明治編18 第1刷)	452・453	青木稔弥・ 十川信介 (校注)	大塚信一 (発行所 岩波書店)	平成14年 (2002年)	
289	蝴蝶 (冒頭)	国語教材	硯友社文学集 (新日本古典文学大系 明治編21 第1刷)	136	山田有策・ 猪狩友一・ 宇佐見毅	山口昭男 (発行所 岩波書店)	平成17年 (2005年)	
290 290	舞姫 (抜粋) たけくらべ (末尾)	国語教材 国語教材	鷗外全集 第一巻 樋口一葉全集 第一巻 (初版第5刷)	444 446	森林太郎 (編纂) 塩田良平・ 和田芳恵・ 樋口 悦	岩波雄二郎 (発行所 岩波書店) 布川角左衛門 (発行所 筑摩書房)	昭和46年 (1971年) 昭和56年 (1981年)	
291 291	多情多恨 (抜粋) 破戒 (冒頭)	国語教材 国語教材	紅葉全集 第六巻 (第1刷) 島崎藤村集 (日本近代文学大系 第13巻 8版)	3 40	尾崎紅葉 (注釈)	安江良介 (発行所 岩波書店) 角川歴彦 (発行所 岩波書店)	平成5年 (1993年) 平成6年 (1994年)	
292	お目出たき人 (抜粋)	国語教材	武者小路実篤全集 第一巻 (初版第1刷)	80	山田 晃 武者小路実篤	相賀徹夫 (発行所 小学館)	昭和62年 (1987年)	
293	西洋の新しい概念と漢語	国語教材						
294・295 294脚注3	小諸なる古城のほとり	国語教材 写真	藤村全集 第一巻	237	島崎藤村	竹之内静雄 (発行所 筑摩書房)	昭和41年 (1966年)	
296	道程	国語教材	高村光太郎全集 第一巻 (増補版第1刷)	253	高村光太郎	森本政彦 (発行所 筑摩書房)	平成6年 (1994年)	
297	蟬頃	国語教材	定本室生犀星全詩集 第一巻 (第1刷)	78～79	室生犀星	高橋直良 (発行所 冬樹社)	昭和53年 (1978年)	
298 298脚注3	贅のうへ	国語教材 写真	三好達治全詩集 (新装版)	3～4	三好達治	関根栄郷 (発行者 筑摩書房)	昭和54年 (1979年)	アフロ提供
300	近代の短歌八首「くれなゐの……」	国語教材	正岡子規集 (日本近代文学大系 第16巻 初版)	119	(注釈) 松井利彦	角川源義 (発行所 角川書店)	昭和47年 (1972年)	
300	「その子二十……」	国語教材	与謝野晶子・若山牧水・窪田空穂集 (日本近代文学大系 第17巻 初版)	51	(注釈) 坂本政親・ 森脇一夫・ 武川忠一	角川源義 (発行所 角川書店)	昭和46年 (1971年)	
300 301	「馬追虫の……」 「いのちなき……」	国語教材 国語教材	長塚節全集 第三巻 石川啄木集 (日本近代文学大系 第23巻 初版)	305 58	長塚 節 (注釈)	和田欣之介 (発行所 春陽堂書店) 角川源義 (発行所 角川書店)	昭和53年 (1978年) 昭和44年 (1969年)	
301	「君かへす……」	国語教材	現代の短歌 (講談社学術文庫 第2刷)	63	今井泰子 (編)	野間佐和子 (発行所 講談社)	平成3年 (1991年)	
301	「白鳥は……」	国語教材	若山牧水 (短歌シリーズ人と作品8 第3版)	142	高野公彦 (注釈)	今井 肇 (発行所 桜楓社)	昭和57年 (1982年)	
301	「のど赤き……」	国語教材	斎藤茂吉集 (日本近代文学大系 第43巻 初版)	62	藤岡武雄 (注釈)	角川源義 (発行所 角川書店)	昭和45年 (1970年)	
301	「葛の花……」	国語教材	枳 超空 会津八一 (日本詩	17	本林勝夫 枳 超空・	佐藤亮一 (発行所 新潮社)	昭和43年 (1968年)	

300脚注2		写真	人全集16 初版)		会津八一			アマナイメージズ提供
302	近代の俳句八句「いくたびも……」	国語教材	正岡子規 (特装版 文芸読本三版)	164	正岡子規	清水 勝 (発行所 河出書房新社)	昭和62年 (1987年)	
302	「手毬唄……」	国語教材	虚子五句集 上 (第1刷)	186	高浜虚子	安江良介 (発行所 岩波書店)	平成8年 (1996年)	
302	「芋の露……」	国語教材	日本の詩歌 19 (新訂再版)	17	飯田蛇笏 水原秋桜子 山口誓子 中村草田男 荻原井泉水	嶋中鵬二 (発行所 中央公論社)	昭和63年 (1988年)	
303	「曇ないて……」	国語教材	日本の詩歌 19 (新訂再版)	88	飯田蛇笏 水原秋桜子 山口誓子 中村草田男 荻原井泉水	嶋中鵬二 (発行所 中央公論社)	昭和63年 (1988年)	
303	「つきぬけて……」	国語教材	山口誓子全集 第一巻 (初版)	257	山口誓子	三樹 彰 (発行所 明治書院)	昭和52年 (1977年)	
303	「万緑の……」	国語教材	『長子』『火の島』『萬緑』 (中村草田男全集1 初版)	78	中村草田男	小熊勇次 (発行所 みすず書房)	平成元年 (1989年)	
303	「鰯雲……」	国語教材	現代俳句集 (愛蔵版 現代日本文学全集91 初版)	313	(著者代表) 松根東洋城	古田 晃 (発行所 筑摩書房)	昭和36年 (1961年)	
303	「せきをしてもひとり」	国語教材	尾崎放哉全集 (初版)	117	尾崎放哉	津曲篤子 (発行所 彌生書房)	昭和47年 (1972年)	
303脚注4		写真						
306～318	ひよこトラック	国語教材	海 (新潮文庫 初版)	93～115	小川洋子	佐藤隆信 (発行所 新潮社)	平成21年 (2009年)	サイバー・ネット・コミュニケーションズ提供

(付録)

320～323	日本古典文学史年表	表						編集部作成
324～327	日本近代文学史年表	表						編集部作成
328・329	中国文化史年表	表						編集部作成
330	古典参考図録「五行・十干・十二支」	表						編集部作成
330	「時刻・方位図」	図						編集部作成
330	「月の異名」	表						編集部作成
331	「月齢」	図						編集部作成
331	「官制・官職」	図						編集部作成
332	「平安京条坊図・大内裏略図・内裏略図」	図						編集部作成
333	「住居図」	図						編集部作成
334	「室内の調度品」							
	・鏡筥	写真						風俗博物館提供
	・二階棚	写真						風俗博物館提供
	・二階厨子	写真						風俗博物館提供
	・唐櫛笥	写真						風俗博物館提供
	・鏡台	写真						風俗博物館提供
	・灯台	写真						風俗博物館提供
	・手燭	写真						風俗博物館提供
	・高坏	写真						風俗博物館提供
	・懸盤	写真						風俗博物館提供
	・脇息	写真						風俗博物館提供
	・円座	写真						風俗博物館提供
	・茵	写真						風俗博物館提供
335	「服飾図」	挿絵						編集部作成

(目次)

3	「清少納言図(部分)」(上村松園筆)	挿絵						福岡市美術館提供
5	「巴御前出陣図」(薮関月筆)	挿絵						東京国立博物館提供
7	「李白吟行図(部分)」(梁楷筆)	挿絵						東京国立博物館提供

(扉)

古文編扉 (31)		写真						中野幸一氏提供
漢文編扉 (157)		写真						説明文は編集部作成 シービーシー・フォト提供
近代以降 の文章編 扉(237)	左上・志賀直哉(256ページ「城の崎にて」)	写真						説明文は編集部作成 国立国会図書館提供
	右上・太宰治【撮影 林忠彦】(279ページ「猿が島」)	写真						林忠彦作品研究室提供
	左下・芥川龍之介(240ページ「羅生門」)	写真						日本近代文学館提供
	右下・横光利一(268ページ「蠅」)	写真						日本近代文学館提供

(前口絵)

①	助動詞一覧表	表						編集部作成
②	動詞活用表	表						編集部作成
②	形容詞活用表	表						編集部作成
②	形容動詞活用表	表						編集部作成
②・③	助詞の主な意味・用法・接続	表						編集部作成
④・⑤	漢文句形一覧	表						編集部作成
⑥・⑦	古文ジャンル解説	図						執筆協力者による書き下ろし
⑧	漢文ジャンル解説	図						編修委員による書き下ろし

(後口絵)

①	鳥瞰文学史 上代(～奈良時代)	図						執筆協力者による書き下ろし
②・③	鳥瞰文学史 中古(平安時代)	図						執筆協力者による書き下ろし
④・⑤	鳥瞰文学史 中世(鎌倉・室町時代)	図						執筆協力者による書き下ろし
⑥・⑦	鳥瞰文学史 近世(江戸時代)	図						執筆協力者による書き下ろし
⑧	漢文重要語	図						編集部作成

(見返し)

i	旧国名・都道府県名対照地図	地図						編集部作成
ii	京都付近地図	地図						編集部作成
iii	助動詞一覧表	表						編集部作成
iv	春秋時代地図	地図						編集部作成
iv	戦国時代地図	地図						編集部作成
v・vi	漢文参考地図	地図						編集部作成

(備考)

- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。
 (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること(別途契約を締結する場合を除く)。

備考4の内容について確認しました。☑

出典一覧表別紙 本文改変部分一覧表

(古文編)

①児のそら寝（宇治拾遺物語）

原文	教科書の本文	訂正の理由
十二 児の搔餅するに空寝したる事 これも (73ページ章段名) (73ページ1行目)	児のそら寝 (34ページタイトル) 削除	難易度への配慮 指導しやすくするため

②検非違使忠明のこと（宇治拾遺物語）

原文	教科書の本文	訂正の理由
これも 抜いて、 (258ページ1行目) (258ページ4行目)	削除 抜きて、 (40ページ7行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため

③大江山（十訓抄）

原文	教科書の本文	訂正の理由
小式部内侍の歌才 よみけるを、 小式部内侍ありけるに、 (122ページ章段名) (122ページ3行目) (122ページ3～4行目)	大江山 (42ページタイトル) 歌を詠みけるを、 小式部内侍、局にありけるに、 (42ページ4行目) (42ページ5～6行目)	難易度への配慮 文意を明確にするため 文意を明確にするため

④花盗人の歌（沙石集）

原文	教科書の本文	訂正の理由
(二) 和歌ノ人ノ感アル事 (228ページ章段名)	花盗人の歌 (46ページタイトル)	難易度への配慮

⑤鷹使いの見た夢（沙石集）

原文	教科書の本文	訂正の理由
(一四) 駕殺事 (310ページ章段名)	鷹使いの見た夢 (48ページタイトル)	教育的な配慮

⑥徒然草

原文	教科書の本文	訂正の理由
あなめでたや。 (279ページ5行目)	つれづれなるままに ある人、弓射ることを習ふに 奥山に猫またといふもの 丹波に出雲といふ所あり あなめでたや、 (60ページ6行目) 花は盛りに (62ページタイトル)	主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため

⑦枕草子

原文	教科書の本文	訂正の理由
	春はあけぼの (66ページタイトル) ありがたきもの 九月ばかり (70ページタイトル)	主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため

⑧土佐日記

原文	教科書の本文	訂正の理由
	門出 (72ページタイトル) かしらの雪 (75ページタイトル) 帰京 (77ページタイトル)	主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため

⑨竹取物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
顕証なること (18ページ13行目)	なよ竹のかぐや姫 (82ページタイトル) 清らなること (83ページ5～6行目) かぐや姫の嘆き (86ページタイトル)	主題を明確にし指導しやすくするため 文意を明確にするため 主題を明確にし指導しやすくするため

⑩伊勢物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
芥河 (117ページ章段名) 芥河といふ河 (117ページ6行目) 戸口にをり、 (118ページ4行目) 得めと思ふ、 (136ページ2行目)	芥川 (90ページタイトル) 芥川といふ川 (90ページ2行目) 戸口に居り。 (90ページ6行目) 得めと思ふ。 (97ページ4～5行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため
筒井つの井筒にかけし (136ページ8行目) 心にくも (137ページ10行目) 小野 (186ページ章段名)	筒井筒井筒にかけし (97ページ8行目) 心にくくも (98ページ15行目) 小野の雪 (102ページタイトル)	指導しやすくするため 文意を明確にするため 主題を明確にし指導しやすくするため

⑪平家物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
高名候へども、 (180ページ5行目) はったりけり、 (182ページ2行目)	高名候ふとも、 (110ページ6行目) 張ったりけり。 (111ページ15行目～112ページ1行目)	指導しやすくするため 文意を明確にするため

⑫万葉集

原文	教科書の本文	訂正の理由
上り来る時の歌二首 (100ページ詞書) 山部宿禰赤人が作る歌一首 (109ページ詞書)	上り来るときの歌 (116ページ5行目) 山部宿禰赤人が作る歌 (118ページ1行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため

⑬奥の細道

原文	教科書の本文	訂正の理由
〔二〕 (76ページ段落番号)	旅こそ栖 (134ページタイトル) 削除 那須野の少女 (137ページタイトル) 平泉懐古 (139ページタイトル)	主題を明確にし指導しやすくするため 指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため 主題を明確にし指導しやすくするため
高館 ^{した} の下にて (99ページ4行目) 康衡等が (99ページ4～5行目)	高館 ^{もと} の下にて (139ページ7行目) 泰衡らが (139ページ8行目)	指導しやすくするため 誤記を訂正するため
此 ^{じやう} 城に籠り、 (99ページ6行目)	この城 ^{しろ} に籠もり、	指導しやすくするため

国破れて山河あり、城春にして草青 ミたりと、(99ページ7～8行目)	(139ページ9行目) 「国破れて山河あり、城春にして草 青々たり。」と、 (139ページ10行目)	指導しやすくするため
---------------------------------------	---	------------

⑭簫史と弄玉（唐物語）

原文	教科書の本文	訂正の理由
簫史・弄玉、鳳凰と共に飛び去る語 (96ページ章段名)	簫史と弄玉 (144ページタイトル)	難易度への配慮

⑮怪を語れば怪至る（伽婢子）

原文	教科書の本文	訂正の理由
怪を 話 ば怪 至 (395ページ章段名)	怪を語れば怪至る (146ページタイトル)	指導しやすくするため
百 話 すれば、 (395ページ1行目)	百物語すれば、 (146ページ1～2行目)	指導しやすくするため
話 つゞくれば、 (396ページ3行目)	語り続けられ、 (146ページ5～6行目)	指導しやすくするため
「いざや百 話 せん」 (396ページ5行目)	「いざや百物語せん。」 (146ページ7行目)	指導しやすくするため
つみに (396ページ9行目)	つひに (147ページ2行目)	指導しやすくするため
うつふして (396ページ12行目)	うつぶして (147ページ5～6行目)	指導しやすくするため
話ることなかれ。鬼を語れば (396ページ15行目)	語ることなかれ。鬼を語れば (147ページ8～9行目)	指導しやすくするため

(漢文編)

⑯推敲

原文	教科書の本文	訂正の理由
島赴舉至京、(1088ページ13行目)	推敲 (168ページタイトル) 賈島拳に赴きて京に至り、 (168ページ1行目)	主題を明確にし指導し やすくするため 指導しやすくするため

⑰漁父之利

原文	教科書の本文	訂正の理由
趙且に燕を伐たんとす (1315ページ章段名)	漁父之利 (170ページタイトル)	主題を明確にし指導し やすくするため
曝す。 (1315ページ2行目)	曝す。 (170ページ2行目)	文意を明確にするため
合せて其の喙を箝む。 (1315ページ3行目)	合 して其の喙を箝む。 (170ページ3行目)	文意を明確にするため
今日出ださず、明日出ださずんば、 (1315ページ4～5行目)	今日出でず、明日出でずんば、 (170ページ5行目)	文意を明確にするため
之を并せ擒へたり。 (1315ページ6行目)	并せて之を擒ふ。 (170ページ6行目～171ページ1行目)	文意を明確にするため
相攻めて、 (1316ページ1行目)	相支すれば、 (171ページ1行目)	文意を明確にするため
以て大衆を敵らさば、 (1316ページ1行目)	以て大衆を敵れしめん。 (171ページ1～2行目)	文意を明確にするため
漁父 (1316ページ2行目)	漁 父 (171ページ2行目)	指導しやすくするため
願はくは王の之を熟計せんことを と。 (1316ページ2行目)	故に王の之を熟計せんことを願ふな り。」と。(「王」の下に「之」を 追加) (171ページ2～3行目)	文意を明確にするため

⑱知音

原文	教科書の本文	訂正の理由
琴を鼓し、 (376ページ4行目)	知音 (172ページタイトル)	主題を明確にし指導し やすくするため
志太山に在れば、	琴を鼓し、 (172ページ1行目)	指導しやすくするため 文意を明確にするため

琴を鼓すること、 しばらく 少選 志流水に在れば、 琴を鼓すること、 鍾子期死するや、 弦を絶ち、	(376ページ5行目) (376ページ6行目) (376ページ7行目) (376ページ7行目) (376ページ8行目) (376ページ8行目) (376ページ9行目)	琴を鼓すること。 (せうせん) 少選 志流水に在り。 琴を鼓すること。 鍾子期死す。 弦を絶ち、	(172ページ3～4行目) (172ページ5行目) (172ページ6行目) (172ページ6行目) (173ページ1行目) (173ページ1～2行目) (173ページ2行目)	文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため
---	---	--	---	--

①9朝三暮四

原文	教科書の本文	訂正の理由
ぐん 羣を成す。 へら 其の家口を損して、 衆狙の己に馴れざるを恐れ、 たぶらか 之を誑して 朝に三にして暮に四。足らんか、 と。 朝に四にして暮に三。足らんか、 と。	朝三暮四 (174ページタイトル) 群れを成す。 其の家口を損じて、 衆狙の己に馴れざるを恐るるや、 之を誑 あざむ きて 朝に三にして暮れに四にせん、足るか。」と。 朝に四にして暮れに三にせん、足るか。」と。	主題を明確にし指導しやすくするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため

②0塞翁馬

原文	教科書の本文	訂正の理由
近ごろ塞の上の人に 之を弔ふ。 さいはいひ 福 何遽能く禍と爲らざらんや、と。 之を弔ふ。 弦を控きて 塞の上の人、 死する者十に九、	塞翁馬 (176ページタイトル) 塞上に近き人、 之を弔す。 (ふく) 福 何遽禍と為る能はざらんや。」と。 之を弔す。 弦を引きて 塞に近き人、 死する者十に九なり。	主題を明確にし指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため

②1鶏口牛後

原文	教科書の本文	訂正の理由
游説して 用ひられず	鶏口牛後 (182ページタイトル) 遊説して 用ゐられず	主題を明確にし指導しやすくするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため

②2鶏鳴狗盗

原文	教科書の本文	訂正の理由
宣王の 追ふ者果して至る。而して及ばず。	鶏鳴狗盗 (184ページタイトル) 齊の宣王の 追ふ者果たして至るも、及ばず。	主題を明確にし指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため

②3管鮑之交

原文	教科書の本文	訂正の理由
----	--------	-------

遊ぶ。(42ページ2行目) 小白立ちて桓公と爲り、公子糾死するに及び、(42ページ4～5行目) 我を以て無恥と爲さず。(43ページ5～6行目) 小節に差ちずして、(43ページ6行目) 封邑を有つこと十餘世。(43ページ9行目) 鮑叔の能く人を知るを多とす。(43ページ10行目)	管鮑之交 (188ページタイトル) 遊ぶ。(188ページ2行目) 小白立ちて桓公と爲るに及び、公子糾は死し、(188ページ5行目) 我を以て恥無しと爲さず。(189ページ7行目) 小節を差ちずして、(189ページ7行目) 封邑を有つ者 ^{こと} 十余世、(190ページ1行目) 鮑叔の能く人を知るを多とするなり。(190ページ2行目)	主題を明確にし指導しやすくするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため
--	--	---

㊤臥薪嘗胆

原文	教科書の本文	訂正の理由
伍員を擧げて (58ページ1行目) 國事を謀る。 (58ページ1行目) 呉に奔り、 (58ページ3行目) 呉の兵を ^{もつ} 以て (58ページ3行目) 餘兵を ^{もつ} 以て (58ページ7行目) 屬 ^{ぞく} し、 (59ページ4行目) 用ひられざるを (60ページ1行目) 吾が目を ^{くじ} 抉つて (60ページ3行目) 命 ^{めい} じて (60ページ7行目)	臥薪嘗胆 (191ページタイトル) 闔廬伍員を挙げて、(191ページ1行目) 国事を謀らしむ。(191ページ1行目) 呉に奔る。(191ページ2行目) 呉の兵を ^{ひき} 以 ^(ひき) て (191ページ2行目) 余兵を ^(ひき) 以 ^(ひき) て (192ページ2行目) 屬 ^{しよく} し、 (192ページ5行目) 用 ^ひ みられざるを (192ページ7行目) 吾が目を ^み 抉 ^み りて、(192ページ9行目) 命 ^{なづ} けて (193ページ1行目)	主題を明確にし指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため

㊦登鶴鵲楼

原文	教科書の本文	訂正の理由
更に一層の樓に上る。(629ページ2行目)	更に上る一層の楼 (195ページ4行目)	文意を明確にするため

㊧早発白帝城

原文	教科書の本文	訂正の理由
^{とど} 住まらず。(675ページ3行目)	^や 住まざるに (196ページ3行目)	文意を明確にするため

㊨送元二使安西

原文	教科書の本文	訂正の理由
^{げん に} 元二の (165ページ作品名)	^{げん に} 元二の (197ページタイトル)	指導しやすくするため

㊩友情

原文	教科書の本文	訂正の理由
(閨怨) (87ページ章段名) 逆に「漢詩」には、……占めているのである。(87ページ6行目～9行目) まず (87ページ10行目) 李白と杜甫の……黄幾復に寄す」(91ページ9行目～94ページ12行目) これほどに (94ページ13行目) 二つのポイント……一つは、(94ページ13行目～95ページ2行目)	削除 削除 削除 削除 削除 削除	指導しやすくするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため 分量を調整するため 指導しやすくするため 指導しやすくするため

②⑨雑説

原文	教科書の本文	訂正の理由
雑の説四 (95ページ作品名) 而も伯樂は常には有らず。 (95ページ2行目) 一石を (95ページ4行目) 其の能く千里なるを (95ページ5行目) 其の能く千里なるを (95ページ8行目) 其の材を盡す能はず。 (95ページ8～9行目) 之を鳴けども (95ページ9行目)	雑説 (210ページタイトル) 伯樂は常には有らず。 (210ページ2行目) 一石を (210ページ4行目) 其の能の千里なるを (210ページ5行目) 其の能の千里なるを (210ページ7行目) 其の材を尽くさしむる能はず。 (210ページ8行目) 之に鳴けども (210ページ8行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため

③⑩論語

原文	教科書の本文	訂正の理由
慍みず、 (15ページ2行目) 吾十有五にして學に志す。三十にし て立つ。 (40ページ1行目) 鮮いかな仁。 (19ページ1行目) 孔子に語げて (293ページ1行目) 而して子之を證せりと。 (294ページ1行目) 食を足らし、兵を足らし、 (265ページ1行目)	慍みず、 (218ページ2行目) 吾十有五にして學に志し、三十にし て立ち、 (218ページ4行目) 鮮なし仁と。 (220ページ1行目) 孔子に語りて (220ページ5行目) 子之を証せりと。 (220ページ6行目) 食を足し、兵を足し、 (221ページ3行目)	文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため

③⑪孟子

原文	教科書の本文	訂正の理由
其の心を放して (400ページ1行目) 雞犬の放すること (400ページ2行目) 放心有りて、 (400ページ2行目) 求むることを知らず。 (400ページ2～3行目) 曰く、 (40ページ3行目) 従つて (40ページ6行目) 民を罔することを、而も爲す可けん や、と。 (40ページ7行目) 心を用ふるが (13ページ4行目)	其の心を放ちて (224ページ2行目) 鶏犬の放たるること (224ページ2行目) 心を放つこと有りて、 (224ページ3行目) 而も求むることを知らず。 (224ページ3行目) 孟子曰はく、 (224ページ5行目) 従りて (224ページ7行目) 民を罔することを為すべけんや。」 と。 (225ページ1行目) 心を用ゐるが (225ページ4～5行目)	文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため

③⑫読家書

原文	教科書の本文	訂正の理由
便風吹きて著く (506ページ4行目) 移されて去りぬ (506ページ5行目) 寄り居らしむ (506ページ6行目) 齋の儲け (506ページ8行目) 苦しび (506ページ9行目) 懊し悩すなり (506ページ10行目)	便風吹著す (228ページ下段1行目) 移去せられ (228ページ上段2行目) 寄居せしむ (228ページ下段2行目) 齋儲 (228ページ下段3行目) 苦しみ (228ページ上段4行目) 懊悩せしむ (228ページ下段4行目)	文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため

③⑬野中兼山

原文	教科書の本文	訂正の理由
	野中兼山 (231ページタイトル) 野中兼山 (231ページ1行目)	主題を明確にし指導し やすくするため 文意を明確にするため

③4城の崎にて

原文	教科書の本文	訂正の理由
自分は「 ^{はん} 范の犯罪」という……気持 だったので弱った。(319ページ14 行目～320ページ7行目)	削除	指導しやすくするため

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考にする情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	2	二次元コード	自社	自社ページURL	目次ページに配置。掲載情報の一覧およびリンク集。 各ボタンを押下すると、番号2, 9, 16, 19, 31, 38, 47, 55, 64, 80に遷移する。	別紙1添付
2	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の基礎1」の掲載情報の一覧およびリンク集。 各項目を押下すると、番号3～8に遷移する。	別紙2添付 画像
3	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「歴史的仮名遣いの読み方」についての設問を掲載。	別紙3添付 画像
4	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「古語と現代語」についての設問を掲載。	別紙4添付 画像
5	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「五十音図といろは歌」についての設問を掲載。	別紙5添付 画像
6	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「文章・文・文節・単語」についての設問を掲載。	別紙6添付
7	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「文節の種類」についての設問を掲載。	別紙7添付 画像
8	37, 39	二次元コード	自社	自社ページURL	「古語辞典の引き方」についての設問を掲載。	別紙8添付 画像
9	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の基礎2」の掲載情報の一覧およびリンク集。 各項目を押下すると、番号10～15に遷移する。	別紙9添付 画像
10	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「単語の分類」についての設問を掲載。	別紙10添付 画像
11	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「品詞」についての設問を掲載。	別紙11添付 画像
12	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「活用形の主な用法」についての設問を掲載。	別紙12添付 画像
13	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「動詞の活用」についての設問を掲載。	別紙13添付 画像
14	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「形容詞の活用」についての設問を掲載。	別紙14添付 画像

15	44	二次元コード	自社	自社ページURL	「形容動詞の活用」についての設問を掲載。	別紙15添付画像
16	52	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の基礎3」の掲載情報の一覧およびリンク集。各項目を押下すると、番号17～18に遷移する。	別紙16添付画像
17	52	二次元コード	自社	自社ページURL	「係り結び」についての設問を掲載。	別紙17添付画像
18	52	二次元コード	自社	自社ページURL	「現代語訳の注意点」についての設問を掲載。	別紙18添付画像
19	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の要点1」の掲載情報の一覧およびリンク集。各項目を押下すると、番号20～30に遷移する。	別紙19添付画像
20	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	自発・可能・受身・尊敬の助動詞「る」「らる」についての設問を掲載。	別紙20添付画像
21	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	使役・尊敬の助動詞「す」「さす」「しむ」についての設問を掲載。	別紙21添付画像
22	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	打消の助動詞「ず」についての設問を掲載。	別紙22添付画像
23	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	過去の助動詞「き」「けり」についての設問を掲載。	別紙23添付画像
24	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	完了の助動詞「つ」「ぬ」「たり」「り」についての設問を掲載。	別紙24添付画像
25	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	推量の助動詞「む[ん]」「むず[んず]」「らむ[らん]」「けむ[けん]」「べし」「らし」「めり」「まし」についての設問を掲載。	別紙25添付画像
26	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	伝聞・推定の助動詞「なり」についての設問を掲載。	別紙26添付画像
27	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	打消推量の助動詞「じ」「まじ」についての設問を掲載。	別紙27添付画像
28	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	断定の助動詞「なり」「たり」についての設問を掲載。	別紙28添付画像
29	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	願望の助動詞「まほし」「たし」についての設問を掲載。	別紙29添付画像

30	149, 151	二次元コード	自社	自社ページURL	比況の助動詞「ごとし」「やうなり」についての設問を掲載。	別紙30添付画像
31	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の要点2」の掲載情報の一覧およびリンク集。各項目を押下すると、番号32～37に遷移する。	別紙31添付画像
32	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「格助詞」についての設問を掲載。	別紙32添付画像
33	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「接続助詞」についての設問を掲載。	別紙33添付画像
34	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「係助詞」についての設問を掲載。	別紙34添付画像
35	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「副助詞」についての設問を掲載。	別紙35添付画像
36	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「終助詞」についての設問を掲載。	別紙36添付画像
37	152	二次元コード	自社	自社ページURL	「間投助詞」についての設問を掲載。	別紙37添付画像
38	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の要点3」の掲載情報の一覧およびリンク集。各項目を押下すると、番号39～46に遷移する。	別紙38添付画像
39	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「尊敬表現（動作主尊敬）」についての設問を掲載。	別紙39添付画像
40	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「謙譲表現（受け手尊敬）」についての設問を掲載。	別紙40添付画像
41	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「丁寧表現（聞き手尊敬）」についての設問を掲載。	別紙41添付画像
42	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「主な敬語（動詞・補助動詞）」についての設問を掲載。	別紙42添付画像
43	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「二方面に対する敬語」についての設問を掲載。	別紙43添付画像
44	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「二重敬語（最高敬語）」についての設問を掲載。	別紙44添付画像

45	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「絶対敬語」についての設問を掲載。	別紙45添付画像
46	154	二次元コード	自社	自社ページURL	「自尊敬語（自敬表現）」についての設問を掲載。	別紙46添付画像
47	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「文法の要点4」の掲載情報の一覧およびリンク集。各項目を押下すると、番号48～54に遷移する。	別紙47添付画像
48	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「枕詞」についての設問を掲載。	別紙48添付画像
49	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「序詞」についての設問を掲載。	別紙49添付画像
50	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「掛詞」についての設問を掲載。	別紙50添付画像
51	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「縁語」についての設問を掲載。	別紙51添付画像
52	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「体言止め」についての設問を掲載。	別紙52添付画像
53	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「本歌取り」についての設問を掲載。	別紙53添付画像
54	156	二次元コード	自社	自社ページURL	「見立て」についての設問を掲載。	別紙54添付画像
55	159 161 163 165 166	二次元コード	自社	自社ページURL	「漢文の基礎」の掲載情報の一覧およびリンク集。各項目を押下すると、番号56～63に遷移する。	別紙55添付画像
56	159 161 163 165 166	二次元コード	自社	自社ページURL	「漢語の構造」についての設問を掲載。	別紙56添付画像

57	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「送り仮名」についての設問を掲載。	別紙57添付 画像
58	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「主な返り点」についての設問を掲載。	別紙58添付 画像
59	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「書き下し文の決まり」についての設問を掲載。	別紙59添付 画像
60	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「置き字」についての設問を掲載。	別紙60添付 画像
61	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「再読文字」についての設問を掲載。	別紙61添付 画像
62	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「返読文字」についての設問を掲載。	別紙62添付 画像
63	159 161 163 165 166	二次元 コード	自社	自社ページURL	「漢文特有の構造」についての設問を掲載。	別紙63添付 画像
64	233, 235	二次元 コード	自社	自社ページURL	「漢文の要点1」の掲載情報の一覧およびリンク集。 各項目を押下すると、番号65～79に遷移する。	別紙64添付 画像

65	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「否定形」についての設問を掲載。	別紙65添付画像
66	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「疑問形」についての設問を掲載。	別紙66添付画像
67	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「反語形」についての設問を掲載。	別紙67添付画像
68	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「詠嘆形」についての設問を掲載。	別紙68添付画像
69	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「使役形」についての設問を掲載。	別紙69添付画像
70	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「受身形」についての設問を掲載。	別紙70添付画像
71	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「仮定形」についての設問を掲載。	別紙71添付画像
72	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「限定形」についての設問を掲載。	別紙72添付画像
73	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「累加形」についての設問を掲載。	別紙73添付画像
74	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「比較形」についての設問を掲載。	別紙74添付画像
75	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「選択形」についての設問を掲載。	別紙75添付画像
76	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「比況形」についての設問を掲載。	別紙76添付画像
77	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「抑揚形」についての設問を掲載。	別紙77添付画像
78	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「願望形」についての設問を掲載。	別紙78添付画像
79	233, 235	二次元コード	自社	自社ページURL	「倒置形」についての設問を掲載。	別紙79添付画像

80	236	二次元 コード	自社	自社ページURL	「漢文の要点2」の掲載情報の一覧およびリンク集。 各項目を押下すると、番号81～82に遷移する。	別紙80添付 画像
81	236	二次元 コード	自社	自社ページURL	「漢詩の決まり」についての設問を掲載。	別紙81添付 画像
82	236	二次元 コード	自社	自社ページURL	「漢詩の詩形」についての設問を掲載。	別紙82添付 画像

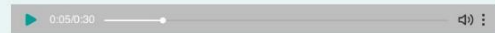
言語文化	
目次	
<知>のコミュニティへ	ことばの風、文化の記憶
「ことばが運ぶ文化の記憶」	●音声 朗読(原文・現代語訳) >
古文編 3	物語と軍記
構成と概観「伊勢物語」	●多様な美術工芸品 >
伊勢物語「東下り」	●地図 主な歌枕一覧／「東下り」の行程 >
古文編 4	和歌と俳諧
構成と概観「古今和歌集」	●三大歌集と八代集 >
「場所の記憶を残す恋歌」	●地図 主な歌枕一覧／「小倉百人一首」の歌枕 >
奥の細道「旅こそ栖」	●地図 主な歌枕一覧／「奥の細道」の行程 >
漢文編 3	詩文
「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」	●地図 白居易と元稹が左遷された地 >
漢文編 4	思想
構成と概観「論語」	●地図 孔子の遊説 >
近代以降の文章編	
言語文化の近代——「自分」と外界	●ツルゲーネフ「あひびき」冒頭 >
近代以降の文章編 1	近代の小説
羅生門	●動画 平安京と羅城門 >
羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと	●「今昔物語集」より「大刀帯の陣に魚を売る姫のこと」 >

各ボタンを押下すると、番号 2 ～12へ遷移する
※遷移先の画面は別紙 2 ～12を参照

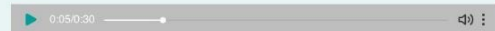


ことばの風、文化の記憶・30ページ
「ことばが運ぶ文化の記憶」
●音声 朗読（原文・現代語訳）

【「吾輩は猫である」】



【「舞姫」】



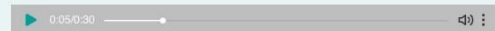
【「楽門の辞」】



【「西鶴諸国はなし」】



【「平家物語」】



【「方丈記」】



【「更級日記」】



【「源氏物語」】



【「万葉集」】



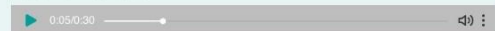
【「古事記」】



【「長恨歌」】



【「白頭を悲しむ翁に代る」】



【「史記」】



【「老子」】





古文編・89ページ 物語と軍記
構成と概観「伊勢物語」
●多様な美術工芸品

「伊勢物語」から影響を受けた後世の美術工芸品を見てみよう。



八橋蒔絵螺鈿硯箱 (尾形光琳・東京国立博物館)



燕子花図屏風 (尾形光琳・根津美術館)

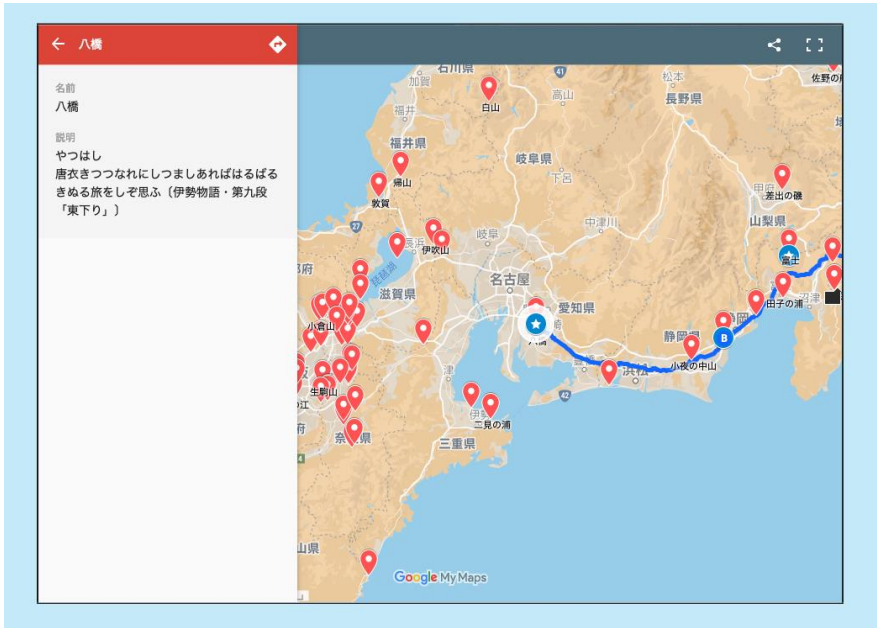


高安の女 (鈴木其一・山種美術館)



伊勢物語かるた (滴翠美術館)

古文編・92ページ 物語と軍記
伊勢物語「東下り」
●地図 主な歌枕一覧／「東下り」の行程



全国に点在する主な歌枕（赤色のピン）と、「東下り」の行程（青色のアイコン）を重ねて描画した状態

「東下り」の行程の1つを選択し、地点情報を表示させた状態

古文編・119ページ 和歌と俳諧
構成と概観「古今和歌集」
●三大歌集と八代集

【三大歌集と八代集】

和歌史上大きな位置を占める「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」を、合わせて〈三大歌集〉という。

天皇（または上皇）の命令で編纂された勅撰和歌集は全部で21あり、これを〈二十一代集〉という。そのうち、最初の三つ（「古今和歌集」～「拾遺和歌集」）を〈三代集〉、八つ（「古今和歌集」～「新古今和歌集」）を〈八代集〉という。重視されていた〈三大歌集〉と〈八代集〉を以下の表にまとめた。勅撰和歌集の残りの13を〈十三代集〉というが、この表には示さなかった。

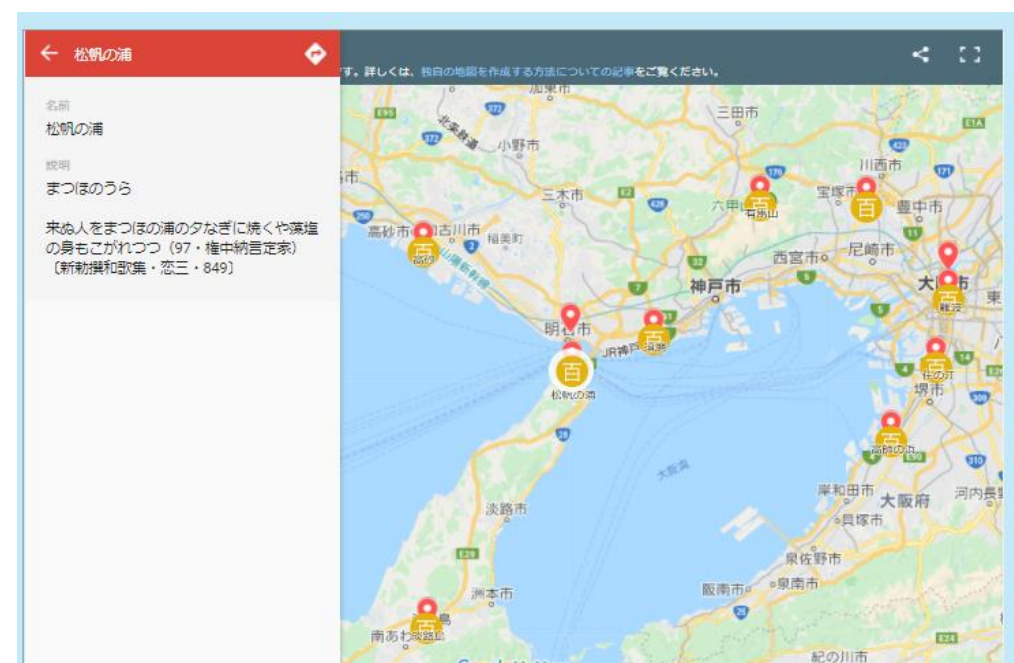
〔三大歌集・八代集一覧〕

歌集名	成立	勅（院宣）	撰者（編者）	主要歌人（撰者を除く）
万葉集	天平 宝 字 3 (759) ?	なし	大伴家持 ?	額田王・柿本人麻呂・高市 黒人・山上憶良・大伴旅人・ 山部赤人・大伴坂上郎女
古今和歌集	延喜5(905) 年	醍醐天皇	紀友則・紀貫之・ 凡河内躬恒・壬 生忠岑	小野小町・僧正遍照・在原 業平・藤原敏行・素性法師・ 伊勢
後撰和歌集	天曆5(951) 年 ?	村上天皇	源 順・大中臣 能宣・清原元輔・ 紀時文・坂上望 城	藤原兼輔・伊勢大輔
拾遺和歌集	寛弘 4 (100 7) 年 ?	花山院	花山院 ?	平 兼盛・藤原輔相・藤原公 任
後拾遺和歌集	応 徳 3 (108 6) 年	白河天皇	藤原通俊	和泉式部・相模・赤染衛門・ 能因法師
金葉和歌集	大治 2 (112 7) 年 ?	白河院	源俊賴	源経信・藤原公実・藤原顕 季
詞花和歌集	仁平元(115 1) 年 ?	崇徳院	藤原顕輔	曾禰好忠・大江匡房
千載和歌集	文治 3 (118 7) 年	後白河院	藤原俊成	藤原基俊・崇徳院・俊恵・ 道因法師・西行
新古今和歌集	元 久 2 (120 5) 年	後鳥羽院	源通具・藤原有 家・藤原定家・藤 原家隆・藤原雅 経（・寂蓮／途中 没）	西行・慈円・藤原良経・式子 内親王・後鳥羽院

古文編・132ページ 和歌と俳諧
「場所の記憶を残す恋歌」
●地図 主な歌枕一覧／「小倉百人一首」の歌枕



全国に点在する主な歌枕を示すピンと、百人一首の歌枕を示すアイコンが、重ねて表示される



百人一首の歌枕の1つを選択し、地点情報を表示させた状態。



漢文編・203ページ 詩文
「八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九」
／「聞白樂天左降江州司馬」
●地図 白居易と元稹が左遷された地



漢文編・216ページ 思想
構成と概観「論語」
●地図 孔子の遊説



近代以降の文章編・238ページ

「言語文化の近代 ―『自分』と外界―

●ツルゲーネフ「あひびき」冒頭

ツルゲーネフ「あひびき」冒頭

ふたばでいしめい
二葉亭四迷

秋九月中旬というころ、一日自分がさる樟^{かば}の林の中に座していたことがあった。今朝から小雨が降りそそぎ、その晴れ間にはおりおり生暖かな日かげも射して、まことに気まぐれな空合い。あわあわしい白雲^{しらくも}が空一面に棚引くかと思うと、ふとまたあちこち瞬間雲切れがして、無理に押し分けたような雲間から澄みて伶俐^{さか}し気に見える人の眼のごとくに朗らかに晴れた蒼空^{あおぞら}がのぞかれた。自分は座して、四顧して、そして耳を傾けていた。木の葉が頭上で幽かに戦^{かす}いだが、その音を聞いたばかりでも季節は知られた。それは春先する、面白^{おもしろ}そう、笑^{わら}うようなさざめきでもなく、夏のゆるやかなそよぎでもなく、永たらしい話し声でもなく、また末の秋のおどおどした、うそさぶそうなお饒舌^{しやべ}りでもなかったが、ただようやく聞き取れるか聞き取れぬほどのしめやかな私語^{ひそご}の声であった。そよ吹く風は忍ぶように木末を伝った。照ると曇るとで、雨にじめつく林の中のようすが間断なく移り変った。あるいはそこにありとある物すべて一時に微笑したように、隅なくあかみわたって、さのみ繁くもない樟^{かしら}のほそぼそとした幹^くは思いがけず白絹^{わらび}めく、やさしい光沢^{つや}を帯び、地上に散り布^ふいた、細かな、落ち葉はにわかに日に映じてまばゆきまでに金色を放ち、頭^{かしら}をかきむしったような「バアボロトニク」(蕨^{わらび}の類い)のみごとな茎^つ、しかも熟え過ぎた葡萄^{ぶどう}めく色を帯びたのが、際限もなくもつれつからみつけて、目前に透かして見られた。

あるいはまた四辺^{あたり}一面にわかに薄暗くなりだして、瞬間に物のあいりも見えなくなり、樟^{かば}の木立ちも、降り積ったままでまだ日の眼に逢^あわぬ雪のように、白くおぼろに霞^{かす}む――と小雨が忍びやかに、怪し気に、私語^{ひそご}するようにパラパラと降って通った。樟^{かば}の木は著しく光沢^{きざ}は褪^あめていてもさすがになお青かった、がただそちこちに立つ稚木^{わかき}のみはすべて赤くも黄くも色づいて、おりおり日の光^ひりが今雨に濡^ぬれたばかりの細枝^{しげ}の繁味^みを漏^もれて滑^{なめ}りながらに脱^ぬけて来るのをあびては、キラキラときらめいていた。鳥は一声も音を聞かせず、皆どこにか隠^{かく}れて窺^{ひそ}まりかえっていたが、ただ折節^{しじゅう}に人をさみした白頭翁^{はくとうわう}の声のみが、故鈴^{ふるすず}でも鳴らずごとくに、響きわたった。この樟^{かば}の林へ来るまえに、自分は獵犬^{れんぎょう}を曳^ひいて、さる高く茂^もった白楊^{はくやう}の林を過ぎたが、この樹^きは――白楊^{はくやう}は――全体虫^{おんたいむし}がすかぬ。幹^くといえば、蒼味^{そうみ}がかった連翹^{れんぎょう}色で、葉^はといえば、鼠^{ねずみ}ともつかず緑ともつかず、下手な鉄物細工を見るようで、しかも長一杯^{ちやうび}に頸^{くび}を引き伸ばして、大団扇^{おんうちわ}のように空中に立ちはだかって――どうも虫^{むし}が好かぬ。長たらしい茎^{くき}へ無器用^{むきよう}にひっ付けたような薄^{はく}きたない円葉^{えんは}をうるさく振り立てて――どうも虫^{むし}が好かぬ。この樹^きの見て快^{そよ}い時^{とき}としては、ただ背^せびく^なな灌木^{かんぼく}の中央^{ちゆう}に一段高く聳^{そび}えて、入り日をまともに受け、根元^{こんげん}より木末^{もくまつ}に至^{いた}るまでむらなく樟色^{しょうしき}に染まりながら、風に戦^{かす}いでいる夏の夕暮^{こぐさ}れか、――さなくば空名^{くうな}残りなく晴^はれ渡^わって風のすさまじく吹^ふく日^ひ、あおぞらを影^{かげ}にして立ちながら、ザワザワざわつき、風に吹きなやまされる木の葉^はの今^{こん}にも梢^{たぐ}をもぎ離^{はな}れて遠く吹き飛^とばされそうに見える時^{とき}かで。とにかく自分はこの樹^きを好まぬので、そこでその白楊^{はくやう}の林には憩^{やす}まず、わざわざこの樟^{かば}の林にまで辿^{たど}り着^きいて、地上^{ちようど}わずか離^{はな}れて下枝^{したえ}の生^はえた、雨^{あめ}しのぎになりそうな木立^{もくたち}を見立てて、さてその下に栖^すを構^{かま}え、四辺^{あたり}の風景^{ふうけい}を眺^{なが}めながら、ただ遊獵^{ゆうりやく}者のみが覚えのあるという、例^{れい}の穏^{おだ}やかな、罪^{つみ}のない夢^{ゆめ}を結^{むす}んだ。

*本文は「二葉亭四迷全集」によった。同全集には、二葉亭四迷が1888(明治21)年に雑誌『国民之友』にて発表した「あひびき」と、1896(明治29)年に翻訳小説集『かた恋』に掲載した「あひびき(改訳)」がそれぞれ収録されているが、本ページには前者の訳を掲載した。

近代以降の文章編・241ページ 近代の小説

「羅生門」

●動画 平安京と羅城門
(「NHK for School」ウェブサイト)

平安京と羅城門

(NHK for School)

https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310761_00000

NHK for School

先生向け OFF
先生向けとは

いちらん
ばんぐみ 一覧 プレイリスト おうちで学ぼう!
学びをひろげよう ヘルプ リンク集



再生開始 00 : 00 ~ 再生終了 01 : 56

決定



ねらい

平安京の様子から、当時の都の規模、国家の力の大きさを
知る事ができる。

内容

千年の都、京都。794年、桓武天皇によって、この地に
都が移されました。平安京です。東西4.5km、南北
5.2kmの大きさで、碁盤の目状に区分けされた計画的
な都市でした。都の正面には、羅城門が聳え立っていま
した。その規模は、幅が約35.7m、高さは約21mあ
ったと推測されています。羅城門をくぐると、都のメイン
ストリート、朱雀大路が延びています。幅84mの一直線
の道で、両側には官庁や離宮が立ち並んでいました。羅城門
のすぐ西には、朱雀大路が通っており、その西には西

平安京

遷移画面

近代以降の文章編・255ページ 近代の小説

「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人のこと」

●「今昔物語集」より

「大刀帯の陣に魚を売る姫のこと」

たてはき ちん いを おうな
太刀帯の陣に魚を売る 姫 のこと(「今昔物語集」巻第三十一)

今は昔、三条の院の天皇の春宮にておはしましける時に、大刀帯の陣に常に来たりて魚売る女ありけり。大刀帯どもこれを買はせて食ふに、味はひの美かりければ、これを役と持て成して菜の料に好みけり。干たる魚の切れ切れなるにてなむありける。

しかる間、八月ばかりに大刀帯ども小鷹狩りに北野に出でて遊びけるに、この魚売りの女出で来たり。大刀帯ども女の顔を見知りたれば、「こやつは野には何態するにかあらむ」と思ひて、馳せ寄りて見れば、女大きやかなる籬を持ちたり、また楚一筋を捧げ持ちたり。この女、大刀帯どもを見て、怪しく逃げ目を仕ひてただ騒ぎに騒ぐ。大刀帯の従者ども寄りて、「女の持ちたる籬には何の入りたるぞ」と見むとするに、女惜しむで見せぬを、怪しがりて引き奪ひて見れば、蛇を四寸ばかりに切りつつ入れたり。奇異しく思ひて、「こは何の料ぞ」と問へども、女さらに答ふことなくてくへて立てり。早う、こやつのしけるやうは、楚をもつて藪を驚かしつつ、這ひ出づる蛇を打ち殺して切りつつ、家に持て行きて、塩を付けて干して売りけるなりけり。大刀帯どもそれを知らずして、買はせて役と食ひけるなりけり。

これを思ふに、蛇は食ひつる人悪しと言ふに、何と蛇の毒せぬ。

しかれば、その体たしかになくて切れ切れならむ魚売らむをば広量に買ひて食はむことは止むべし、となむこれを聞く人言ひ 繚ひける、となむ語り伝へたるとや。

【現代語訳】

今は昔、三条天皇が皇太子でいらっしゃったころ、帯刀の詰め所にいつも魚を売りに来る女がいた。帯刀どもがこれを買取らせて食べてみると、なかなかよい味なので、もっぱらこれをもてはやし、おかずとして賞味していた。それは干魚を小さくこま切りにしたものであった。

さて、八月ごろのこと、帯刀どもが小鷹狩りをしに北野に出て遊んでいると、この魚売りの女がどこからともなく現れた。帯刀どもは女の顔を見知っているの、

「あいつ、この野で何をしているんだらう」と思い、駆け寄ってみると、女は大きな籬を持ち、また鞭を一本手にしていた。女は帯刀どもを見て、怪しくも逃げ腰になってやたらあわてふため。帯刀の従者どもがそばに寄り、女が持っている籬に何が入っているのかのぞこうとすると、女は隠して見せまいとする。怪しく思って引ったくり、中を見ると、蛇を四寸(約一二センチ)ほどに切り刻んで入れてあった。驚いて、「いったい、これは何にするのだ」ときいたが、女は口をつぐんで返事もせず、くへて立っていた。なんと、こやつは、鞭で藪をたたきたたき、はい出る蛇を打ち殺し、小さく切っては家に持ち帰り、塩をつけて干して売っていたのだった。帯刀どもはそれと知らずに買わせて、盛んに食っていたのだ。

思うに、蛇は、食べば当たるということだが、どうして蛇を食って毒にやられなかったのだろうか。

されば、姿がはっきりしていない切り身の魚を売っているのを、うかつに買って食うことはやめるべきだ、とこれを聞く人は言い合った、とこう語り伝えているということだ。

*本文・現代語訳は「新編日本古典文学全集」によった。なお、くへは欠字である。